

国際交流
記録文集

International Exchange Record

2024



国際交流

目次

『国際交流記録文集』第16号 発刊に寄せて 奈良学園大学 社会・国際連携センター長 善野 八千子

『充実した研修の継続を願って』 学長の挨拶 奈良学園大学 学長 金山 憲正…………… 1

夏期日本語研修プログラム

研修レポート 蘇州科技大学 研修生 朱真真……………	2
My impression on the warm Japan 蘇州科技大学 研修生 庄慧蘭……………	3
研修レポート 蘇州科技大学 研修生 郭智衡……………	4
Japan Naragakuen University Research Report 蘇州科技大学 研修生 崔奕昱……………	5
奈良学園大学 夏期日本語研修プログラム 蘇州科技大学 研修生 周嘉楠……………	6
奈良学園大学 夏期研修感想 蘇州科技大学 研修生 陳洪筆……………	7
研修レポート 蘇州科技大学 研修生 趙文婷……………	8
この夏の宝 台湾国立屏東科技大学 研修生 許辰賓……………	9
研修レポート 台湾国立屏東科技大学 研修生 郭奕維……………	10
研修レポート 台湾国立屏東科技大学 研修生 陳姿穎……………	11
研修レポート 台湾国立屏東科技大学 研修生 陳宥霖……………	12
研修レポート 台湾国立屏東科技大学 研修生 許廷……………	13
研修レポート カンボジアメコン大学 EK NEZA……………	14

東アジア文化交流研修

東アジア文化交流研修レポート 特別聴講生 王忠煜 楊佳豪 尹丹旋 馮晨茜……………	15
---	----

奈良学園大学と蘇州科技大学文化交流

令和6年度 奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）……………	16
第4回奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）を開催して 人間教育学部 准教授 山田 明広……………	17
关于第四届奈良学园大学与苏州科技大学文化交流会（线上） 人間教育学院 副教授 山田 明広……………	18
奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流（オンライン）～身近なところから考える多文化共生～ 人間教育学部 講師 オチャンテ・カルロス……………	19
みんなが同じ教室で過ごすためには PPT 人間教育学部 2011446 奥田 寧香……………	20
身の周りの共生 PPT 人間教育学部 2111418 西川 力永……………	21
年れいの違い人との共生 PPT 人間教育学部 2111414 川上 誓也……………	22

外国人の労働環境	PPT	人間教育学部	2211412	中川 星愛羅	23
高れい者とこどもの価値観の違い	PPT	人間教育学部	2211227	甲川 颯大	24

台湾文化交流研修

台湾文化交流研修から得た貴重な経験	保健医療学部	溝口 みちる先生	25
異文化体験とコミュニケーションから学んだこと	保健医療学部	2131210 川島 真夕	26
台湾文化交流研修を終えて、異文化体験とコミュニケーションから学んだこと	保健医療学部	2131237 安井 海陽	27
異文化体験とコミュニケーションから学んだこと	保健医療学部	2332209 富山 陽一	28

セブ島語学研修

2024年度 セブ語学研修			
人間教育学部	2411106	嵯峨根 葵、2411113 山崎 結菜、2411211 永田 ほのか、2411220 吉村 陽葉、2411411 鈴木 乃愛	29

特別聴講生プログラム

日本の教育環境における格差と是正についての考察 一家庭環境を中心に一	PPT	蘇州科技大学	楊佳豪	30
視覚障害者の誘導方法に関する考察一施設・設備とアプリケーションの提案一	PPT	黒龍江東方学院	王 忠煜	32
日本語における男ことばと女ことばの違いに関する一考察				
一日本の小学校1年生の国語教科書における男ことばと女ことばを参考にし一	PPT	黒龍江東方学院	尹 丹旎	34
中日における家族と友人を対象として「謝罪」の比較研究				
一中国語母語話者と日本語母語話者の視点からの分析一	PPT	黒龍江東方学院	馮晨茜	37

編集後記	保健医療学部	講師	笹野 弘美	39
------	--------	----	-------	----

「国際交流記録文集」第16号 発刊に寄せて

2024年度「国際交流記録文集」第16号では、主に以下の点に注目頂けたらと存じます。

1点目は、2024年度の社会・国際連携センターの特色あるプログラムです。まず、特別聴講生(留学生)を登美ヶ丘キャンパスで受け入れた2年目となりました。本誌では、人間教育学部の先生方の知見に基づいた丁寧な個別指導による「課題研究発表成果」の4編を紹介しています。

その直後に開催された修了式「謝辞」を抜粋して、ご紹介致します。

「日本は私の心の中でとても魅力的な国です。日本人もとても優しい、外国人として日本に来て生活すると、生活の中でよく分からないことがたくさんあります。しかし、分からないことがあった時、先生でも友達でも見知らぬ人でも、みんないつも笑顔で、とても辛抱強く説明してくれて、分からない問題を解決してくれました。」「初めて関西弁を聞いた時、面白いと思って勉強したいと思いました。日本でのこの一年間、多くの友人が関西弁をたくさん教えてくれました。このことでさらに日本への愛を深めました。日本は人にも方言にも魅力的な国です。」

中国でもしたことの無いアルバイトを日本で継続し、身に付けた日本語での「修了式謝辞」は、人と繋がりがながら獲得した成果と満足感がひしひしと伝わってまいりました。

2点目に、年を追う毎に豊富な体験内容となっている「夏期日本語研修プログラム」の充実です。ここでも海外連携協定大学から17名の学生(中国、台湾、カンボジア)を迎え、日本の文化・奈良の文化に浸る体験のみならず、学内でも本学学生と交流が深められた発展的なプログラムとなりました。

3点目には、新たなプログラムとして「台湾文化交流研修」がスタートしたことです。看護学科・リハビリテーション学科の学生参加による現地研修は、周到的な事前準備や日々の連絡調整などによって実現に至りました。これは、永くから親交を深めてきた「台湾国立屏東科技大学」とのつながりがあります。参加者が英語力を高める契機となる語学交流のみならず、現地交流や直接体験から得られた価値と新たな発見等は未来への扉が開いた第一歩と希望の展開となりました。

4点目には、蘇州科技大学(中国)とのオンライン交流の継続ができたことです。海外連携協定校のうち、古くからつながりのある蘇州科技大学はオンライン交流の4年目です。テーマ「多文化共生について語り合おう!」に取り組み、また一步国際交流が進められたようでした。

また、人間教育学部においては「セブ島語学研修」として、引き続いて国際交流の現地研修があり、参加学生の大きな成長が見られました。継続してその成果を寄稿して頂く事ができたことに感謝致します。誠にありがとうございました。

今後も学生の健康安全と育成を第一にし、「スチューデント・ファースト」という本学のスクール・ポリシーに少しでも寄与したいと考えております。

最後になりましたが、本年度の社会・国際連携センターの活動に御協力頂きました皆様、また継続して、各学生の指導に温かい配慮と支援に誠心誠意あたられた本センター運営委員並びに職員各位に深く感謝致します。

奈良学園大学 社会・国際連携センター長
人間教育学部 特任教授 善野 八千子





充実した研修の継続を願って

奈良学園大学 学長 金山 憲正

海外の大学から来日する学生に対しまして奈良学園大学では「夏期日本語研修」「東アジア文化交流研修」「特別聴講生」の各プログラムが用意され、本年度も参加した学生さんから満足度の高い研修であったとの評価を得ることができました。「夏期日本語研修」には蘇州科技大学、国立屏東科技大学、黒龍江東方学院、メコン大学からの学生さんが3週間の研修に参加し、そのレポート11編が本文集に収録されています。どの学生さんのレポートも研修期間が3週間とは思えない程充実した内容になっていることに驚かされています。「東アジア文化交流研修」と「特別聴講生」プログラムの参加者は、蘇州科技大学、黒龍江東方学院からの計4名でどちらのプログラムも同じ学生さんの参加となっています。「特別聴講生」の学生さんは約1年の研修期間中に「東アジア文化交流研修」にも参加いたしました。この4名の学生さんは約1年の滞在中に日本各地を訪問したり自分で開拓したアルバイトで日本人の仲間と交わったりと日本の生活文化と積極的に触れることにも挑戦していました。その結果、「相手の気持ちを考えて行動する」ことの大切さが理解でき、それが身につけてきたと笑顔で語る姿が印象に残りました。

一方、本学から海外へ出かける研修としましては、「セブ島語学研修」と「台湾文化交流研修」のプログラムが実施されました。「セブ島語学研修」は4週間の間「英語漬けの毎日」を体験する研修でコロナパンデミックの期間を除いて継続実施されており、本年も実施することができました。また、「台湾文化交流研修」は本年度からの新しい取組として、本学学生の人間力育成とグローバルマインドを醸成することを目的として企画されたものです。具体的には海外協定校の一つである台湾の国立屏東科技大学での英語交流会や屏東県内の教育機関・医療機関・文化施設等でのエクスカーショを通して、いろいろな文化を幅広く感じる活動が主な内容となっています。

今回が初めての企画であったにも関わらず、屏東科技大学や美和科技大学のご配慮や学生さん達の協力で支えられて本研修を大変充実したものとすることができました。

その他にも本学と蘇州科技大学をオンラインで結んでお互いの大学がPPTでの発表を交換し合う形での文化交流会も実施することができ、その内容も先の研修と同様本文集に収録されています。

最後になりましたが、本学での研修プログラム並びに本学からの海外研修の企画立案にご尽力頂きました社会・国際連携センターの皆様、研究指導や宿泊の引率など本事業推進に多方面にわたりご協力頂きました教職員の皆様に心から感謝すると共に厚くお礼申し上げます。





研修レポート

蘇州科技大学 研修生 朱真真

最初の文化研修は浴衣の体験と折り紙の体験だ。私たちは誰もが専門の先生の指導の下でユニークな浴衣を着て、さらに先生たちは女の子たちのために、古典的で似合う髪型をデザインしました。浴衣を着てから、友達と一緒にきれいな写真をたくさん撮りました。本当に楽しい体験でした！それと同時に、先生が日本の折り紙を見せてくれて、きれいな形に折る方法を教えてくれただけでなく、たくさんの折り紙のプレゼントもくれました。

次は日本の伝統楽器である、尺八の文化研修でした。尺八の歴史や仕組みなどを松本太郎先生が紹介してくれました。授業の中で、先生は私たちのために2曲の歌を演奏してくれた。そして自分たちで尺八を吹奏してみました。私にとって、これはすべての文化体験中最も困難な挑戦であり、どんなに努力してみても、少しでも完全な声を出すことはできませんでした。これは私をがっかりさせました。でも音楽を吹奏することに成功した熱心なクラスメートや太郎先生は、根気よく指導してくれて、直してくれました。やっと体験が終わる頃に、音楽を吹奏することができました！本当に嬉しかったです！

最後に印象に残ったのは信貴山の文化研修でした。私たちはバスで信貴山に到着し、山の上のホテルまで歩いた。そこで、まず日本の仏教文化を体験し、お経を朗読して模写しました。経文を写した後、経文の便箋は寺に残しました。しばらくすると、私たちの手紙は燃やされて、祈りを実現するために使われました。翌朝、どのようにしてお経が燃やされ祈願に使われたのか見学しました。見学が終わった後、先生が山の中のいろいろなお寺を案内してくれて、種類が多くて、どのお寺もたくさんの人の願いを乗せて、ため息が出るほどでした。

いつのまにか研修が終わってから1ヶ月以上経っていましたが、まだその時の思い出に浸っているようで、そのの

人物のことはすべて深い印象を残しました。今回のプロジェクトを見て名乗りを上げてくれた当時の自分に感謝し、今年の夏はこんなに充実して満足しました。





My impression on the warm Japan

蘇州科技大学 研修生 庄慧蘭

私は、名残惜しさを表したいです。でも、日本語がぜんぜん得意ではありません。そして、自分の気持ちを英語で伝えるしかない。

It is said that the hard part isn't making the decision. It's living with it. As I decided to learn Japanese well, I chose to visit Japan for a short study.

Experience is a kind of living knowledge. I am bound to experience a lot of new things when I travel to Japan, a land of rich history and vibrant culture, beckons with its blend of ancient traditions and modern marvels. Nara is a beautiful place. It is a place of traditional Japanese culture. I like this city so much. We visited a lot of temples. There are many cute and agile pigeons over the square. There are also many adorable deer hanging through the park and the tamper. It's a wonderful trip. I feel the movement of the famous Japanese culture and the magnificence of nature. Moreover, we met Fireworks Festival in Osaka, which is called Hanabitaikai in Japanese. It was so beautiful

that even made me cry. I will remember that day forever. The beautiful sense impressed me strongly.

Then we went to Dotonbori and had some famous snacks: the cuttlefish balls and the charcoal crab nippers (it's said to be fresh sea crab from Hokkaido, and the crab meat is really sweet. During the whole journey, I liked the special local product, Nara's pickle, which is very famous even over the world. We have delicious noodles every day.

I also met many adorable and smart classmates. We study together, travel together, and always have a good time. Although we only get along with each other for a long time, I still have a strong impression on everyone.

During the study, I learned that One needs 3 things to be truly happy living in the world: something to do, someone to love, and something to hope for.





研修レポート

蘇州科技大学 研修生 郭智衡

夏の情熱と太陽の光とともに、私は日本の奈良への留学の旅に出た。この旅は、時空を超えた航海のようなもので、知識の海を泳ぐだけでなく、私の人生観と世界観をより深く形作ってくれました。

初めて奈良に来て、私はこの町の長い歴史と濃厚な文化的雰囲気深く震撼しました。東大寺の広い庭を歩くと、古木が天に昇り、石の道がまだらになっていて、まるで歴史の脈絡に足を踏み入れたようだ。東大寺の荘厳さと輝きは、古代の職人の優れた技を見せるだけでなく、日本民族の信仰への執着と追求をも乗せている。その瞬間、文化の伝承と保護は国の責任だけでなく、国民一人一人の使命であることを痛感しました。これらの貴重な文化遺産を大切にし、伝承してこそ、歴史の輝きが未来の道を照らすことができる。

奈良学園大学での学習生活の中で、私は幸運にも異なる国からの同級生に出会った。私たちは日本文化への共通の愛で縁があり、何でも話すことのできる友達になりました。彼との交流の中で、私たちは異なる文化的背景から来ているにもかかわらず、美の追求と知識への渴望はこのように似ていることを深く感じました。この国境を越えた共感、人間の文化は多様だが、心の奥底にある美しいものへの憧れは通じていると確信している。これにより、私は異文化をより開放的に受け入れ、より包容的な心理状態で世界を見ることを学ぶことができました。

奈良の自然もまた忘れられない。春日大社の静けさ、奈良公園ののどかさ……どこも素敵な絵巻のようで心が和み、帰るのを忘れてしまいます。これらの美しい景色は私に自然の鬼斧神工を感じさせただけでなく、人と自然の調和と美しさを感じさせた。

この留学経験を振り返って、私は非常に豊かな収穫を感じました。私は豊富な知識と技能を学んだだけでなく、人生観と世界観においても深く向上しました。私は独立して考え、勇敢に探求し、違いを尊重し、団結協力するなどの

貴重な品質を学びました。これらの品質は私が未来の道を歩んでいくことに伴い、私が絶えず前進する原動力の源となります。

奈良学園大学が企画したイベントの中で、私は幸運にも書道、茶道と和服という3つの日本伝統文化の至宝を深く体験して、書道の練習を通じて、私は深く体得して、文字は交流のツールだけではなく、更に文化伝承のキャリアーで、すべての漢字は歴史の重さと文化の温度を載せています。茶道は礼儀と調和に関する修行である。それはお茶の飲み方だけでなく、生活の芸術でもある。最後に和服の体験で、和服はただ1枚の衣服ではありません、それは更に1種の文化のシンボルで、日本人の美に対する追求と生活の態度を載せています。着物に包まれて、日本文化の独特な魅力と奥深さをより深く感じました。

未来私はこの貴重な経験を私の学習と生活の中に溶け込み、引き続き努力して学習し、絶えず探索し、勇敢に革新します。私は絶えず自分に挑戦し、自分を越えてこそ、より良い自分になれると信じています。同時に、多くの人が国を出て異なる文化を体験し、異なる世界を知る機会になることを願っています。それだけで私たちは自分をより全面的に認識し、この世界を認識することができ、より広い心とより深い視野を持つことができるからです。





Japan Naragakuen University Research Report

蘇州科技大学 研修生 崔奕昱

今回の活動を終えて得たものはたくさんあります。今回の活動についての収獲と感想は次の通りです。

The one-month study tour at Naragakuen University was, for me, a profound blend of cultural exploration and academic enlightenment. I benefited a lot from this activity.

Nara is a city with a long history, with its rich cultural heritage and deep cultural deposits. It opened a door for me to a world where ancient and modern Japan meet. Walking through the streets of Nara, I felt as if I had traveled through time and witnessed the majesty of Todaiji, the tranquility of Nara Park, and the relaxed nature of the deer. This intuitive and immersive cultural experience gave me a deeper understanding of Japan's history, religion, ecology, and the concept of harmonious coexistence between man and nature.

Naragakuen University is known for its rigorous study style and open academic atmosphere. Here, I had the privilege of participating in a variety of activities. These experiences not only broadened my academic horizons but also taught me how to think from different angles and how to maintain critical thinking and innovative spirit in my research. At the same time, I also met a group of like-minded friends, we studied together, made progress together, and left a lot of good memories.

During one month of living in Japan, I deeply realized the importance of language environment to language learning. By communicating with the

locals, my Japanese speaking and listening skills have improved significantly. I began to speak Japanese more confidently in everyday conversations and gradually became able to understand and integrate into the local cultural context. The improvement of my language ability not only enabled me to complete my research task more smoothly but also enabled me to experience Japanese life and culture more deeply.

The study trip was also an exercise in independent living and teamwork. In a foreign country, I learned how to independently solve various problems in life, such as rent, shopping, transportation, and so on. At the same time, in the research project, I also deeply realized the importance of teamwork. Our team members supported and encouraged each other to overcome one difficulty after another and successfully complete the project task. This experience makes me cherish the power of teamwork and makes me more confident to face challenges in the future.

Looking back on this one-month research trip, I feel full of harvest. I not only increased my knowledge and broadened my horizons, but also learned how to think independently, how to cooperate with others, and how to face challenges. These valuable experiences and lessons will accompany me through the future study and life road.

I believe that in the coming days, I will continue to study hard, continuously progress, achieve my dreams, and work hard.

今回のイベントで有益な知識をたくさん学ぶことができました。またこのような活動に参加できることを希望します。





奈良学園大学 夏期日本語研修プログラム

蘇州科技大学 研修生 周嘉楠

ご無沙汰しております、蘇州科技大学の周嘉楠です。先生の皆さんはお元気ですか。私は元気です。今は進学のため、毎日勉強しています。でも、やはり時々皆さんのことを思い出します。日本で皆さんと一緒にいた三週間は、とても楽しかったです。日本語の授業は中国と少し違いますが、先生たちの授業は面白かったと思います。文化体験もすごく素晴らしかったです。綺麗な浴衣を着て、写真を撮りました。そして、尺八に関する知識を習って、尺八をしてみました。最初は難しかったと思いましたが、最後はうまく音を出しました。松本太郎先生のシーディーももらいました。本当に嬉しかったです。エクスカーションは私が思ったより面白かったです。大仏さんは広くて壮観でした。今でも覚えています、大仏殿にある柱の穴は大仏さんと同じ大きさだそうです。東大寺に出たあと、鹿さんがたくさんいました、陳さんに鹿せんべいを渡しました。そして、陳さんは鹿さんに囲まれました。私は隣で見ながら、面白い写真を撮りました。放課後と休みの日、皆と一緒に色々なところへ遊びに行きました。祇園祭、伏見稻荷大社、宇治へ行きました。どこでも美しかったです。ある日、皆と一緒にカラオケへ行きました。プッティアさんが皆の前で踊りました。それもとても面白かったです。私はこのプログラムに参加して、本当に良かったと思います。先生たちにお世話もらって、色んな人と出会って、日本で過ごした時間

はとても素晴らしかったです。三週間、お世話になりました。ありがとうございました。





奈良学園大学 夏期研修感想

蘇州科技大学 研修生 陳洪筆

貴校の研修に参加できて光栄です。研修の中で、私は更に日本の文化を理解して、更に多くの言語の知識を学んで、また私に日本に対して全く新しい概念を持たせました。

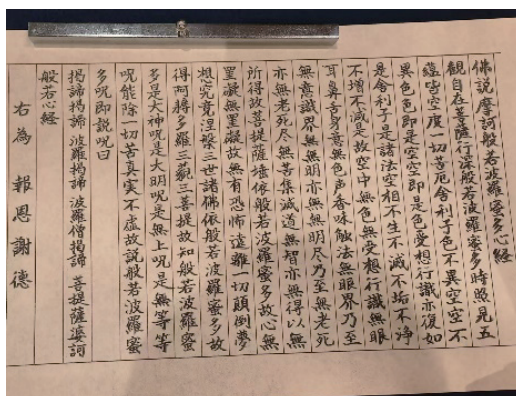
私が一番印象に残っているのは、福寿園と奈良公園への旅行です。

私たちは日本の抹茶の製造過程を学び、抹茶プリンを味わい、日本の抹茶文化を理解し、博物館を訪れました。これは日中文化交流の表れです。奈良公園では東大寺を訪れ、鹿と触れ合いましたし、奈良国立博物館の展示も面白かったです。それ以外、浴衣の体験は私もとても好きで、日本の学友との交流で新しい友達を知りました。信貴山で

の宿泊活動は素晴らしく、写経と護摩日本文化の特別さを存分に体現しています。温泉に浸かるのが本当に日本の生活を楽しむ魅力です！

大学の先生もとても親切で、授業が面白くて好きです。学校の友達もとても親切で友好的で、私はとてもこの雰囲気が好きです。今回の研修の日本語の先生にもとても感謝して、とても私達の世話をして、あなた達との付き合いの中で多くの日本の礼儀を学びました。

今回の研修で日本語の知識を学ぶだけでなく、文化を学び、国際的な友達を作ることができました。これはまたとない機会で、今回の学習の体験に感謝します。





研修レポート

蘇州科技大学 研修生 趙文婷

私は幸運にも2024年の夏休みに日本に来て、奈良学園大学で21日間の日本語と日本文化研修活動を体験して、今回の研修活動は内容が豊富で、学校の先生たちもとても友好的で、私に多くの貴重な経験を得させました。

とにかく、これらの日本での体験はすべて私を満足させて、奈良学園大学が私に今回の機会を与えてくれたことに感謝して、後でまた日本に来る機会があることを望んでいます！

First of all, the environment of Naragaku University is very beautiful. Although the campus is not too big, the interiors of the buildings are state-of-the-art, and the inside of the teaching buildings are spacious and bright. The contents of Japanese classes are not difficult and beginner-friendly. Learning in our classrooms is very interesting, and the teachers are also very responsible. I also had a great time with classmates from different universities. Although everyone has different cultural backgrounds, we can still enjoy very friendly exchanges. I think it is very fun to practice Japanese with my classmates. In addition to the courses, the university also arranged many cultural experiences. I learned origami and tried on a cute kimono. The accommodation at Shinki Mountain was my first time staying in a traditional Japanese-style room, which I had only seen in films before and felt very classical.

The excursions were also very interesting, I saw a lot of lovely deer in Nara Park and fed them with deer senbei. The antiques in the Nara National Museum are also very exquisite. We also went to the Temple of the Golden Pavilion in Kyoto, the golden appearance of the temple was even more magnificent in the sunlight, giving people a shocking feeling. Afterward, the time at the film village was also very wonderful. I watched exhibitions about my favorite animation works and an amazing historical drama performance.

Apart from the activities arranged by the university, I also went to other tourist attractions. In Osaka, I visited the splendid Osaka Castle.

The unique design of Tenshukaku embodies the charm of ancient Japanese architectural art. As the leisure shopping centers, Umeda and Shinsaibashi showcase the urban style. I bought some exquisite anime goods in Umeda. In Kyoto, I also went to Fushimi Inari Shrine, the red buildings and torii gave me a feeling of entering the divine realm. In Kobe, I saw the beautiful sea and the night view of the port, rode the Ferris wheel by the seaside, and I also watched a small fireworks show, which was very romantic.

Through these training activities, I have broadened my horizons and learned how to communicate with people in Japan, as well as the etiquette that needs to be paid attention to when interacting with others. I also learned that Japan's modern culture contains profound historical heritages, which are the promotions of classical culture. Therefore, after the training activities, I plan to continue to work hard to learn Japanese and strive to read original Japanese books. This can enable me to have a deeper understanding of Japanese culture, which will also be of great help to my study of world history and bring me more job opportunities related to the cultural industry.



この夏の宝

台湾国立屏東科技大学 研修生 許展寶

今年の夏休みは特別でした。奈良学園大学で研修の機会をもらったとても幸運でした。日本で学生になることが私の夢でした。この三週間で日本語コースと文化体験さまざまなこと学ばせていただきました。そして色々な国からの友達もできました。

この三週間は私の人生の中で最も豊かな経験となりました。日本語の授業を通じて、日本語の知識が深まり、各先生方の指導が非常に印象的で理解しやすく吸収し応用することができました。文化体験を通じて日本の文化についてもより深く理解できました。特に浴衣体験では、専門の先生に着付けを教わり参加者全員に浴衣をいただくことができ、とても嬉しかったです。尺八の体験では、みんなで音を出すためにみんなが精一杯頑張りました。そして、松本先生からCDをプレゼントしていただき驚きました。帰国後すぐにその美しい音楽を聴きました。信貴山で宿泊の時、たたみの部屋でみんなで一緒に寝てみんなで大浴場へお風呂に入って、そしてとても美味しい精進料理を食べてどれもとても新鮮な経験でした。

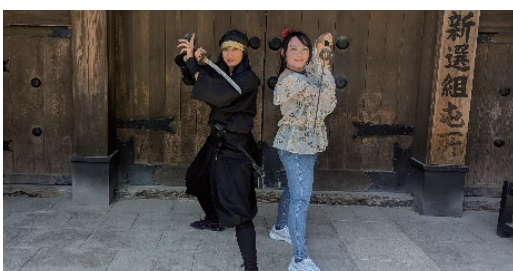
学校の先生方コミュニケーションをとってくださった学生さん達ホテルのスタッフの皆さん文化体験中のスタッフの皆さん奈良に来てから出会った全ての方々にとっても感謝しています。特に渡邊先生と張先生には心から感謝しています。初めて渡邊先生にお会いしたとき渡邊先生は私に温かく挨拶し、たどたどしい日本語でも根気よく会話を続けてくれました。この三週間の間、先生は積極的に私たちと話し掛けてくれたので、私にとって日本での一番の喜びで

した。私はもっと日本語を使う機会が欲しいと思っていました。

言語コミュニケーションが苦手な人にとって、会話を続けるのは難しいのですが、渡邊先生はクラスメイト全員と積極的に会話をしてくれて、本当に優しい。今回の研修で私たちの日常生活を一番気にかけてくれたのは張先生でした。私たちがこの見知らぬ場所に来て戸惑っているときも、張先生は常に丁寧に私たちの世話をし、サポートしてくださいました。クラスメイトが何か問題を抱えていないかと心配し、毎日私たちの面倒を見てくれました。例えば、私たちが研修のために信貴山に行った際も、張先生が助けてくれました。説明を聞いて混乱していた私に、張先生のわかりやすい解説があったおかげで、意味をより深く理解することができ、貴重な知識や文化を学ぶことができました。

この三週間の経験は本当に貴重で、言葉では表現しきれません。私の人生に大きな影響を与えてくれました。この研修の機会を与えてくださった奈良学園大学に感謝します。素晴らしい先生方や仲間と出会い、様々な活動を共に体験できたことは、私にとって特別な思い出です。先生のおかげで私は多くのことを学び、成長することができました。この研修を経て、私の日本語は確実に進歩しました。これは私にとって最大の目標でした。今後もこの素晴らしい先生方や仲間と再び出会い、この素晴らしい生活を体験できることを願っています。

この三週間の研修は私の一番の宝物です。





研修レポート

台湾国立屏東科技大学 研修生 郭奕維

今回の日本での夏期研修では、旅行では経験できないことを経験し、沢山のことを学ぶことが出来てとても嬉しく思っています。

クラスにはいろいろな国の生徒がいたので、お互いに励まし合いながら日本語を学ぶことができました。また、異なる国同士の文化交流もあり充実した日々を過ごすことが出来ました。この3週間で沢山の仲間と出会い、深い絆を築けて本当に幸せです。

授業では、先生が誰もが理解できるように分かりやすい表現で教えてくださり、自身の日本語能力が向上できました。台湾での授業と違い、全てが日本語の教室の中で、聞く・話す・読む・書くことの難しさを体感しました。このコースでは、先生が沢山コミュニケーションを取って下さり、食堂の食事では学校の生徒と一緒に食事をしたり、楽しい会話をしたりする機会もあったので、聞く力・話す力がとても伸びたと感じました。

もちろん、この交流は授業だけでなく、文化的な体験交流もありました。その中で私が一番印象に残っていることは、浴衣の着付け体験です。学校の先生が浴衣の着付けをしてくれるだけでなく、浴衣一式までプレゼントしてくれました。また、1300年の歴史を持つ東大寺の伽藍はとてもよく保存されており、中に入れば数百年前に戻ったような気分を味わうことができました。尺八体験は、小学生の頃に吹いていたリコーダーに似ていましたが吹いてみると、とても難しいと感じました。私が音を

出せるようになったのは、松本先生の指導を受けてからです。肺活量が足りず、酸欠になるほど吹かなければなりませんでした。

そして、一泊二日の信貴山の旅はさらに思い出深いものになりました。今まで経験したことのないお寺に一泊し、精進料理を食べながらお経を読みました。あぐら瞑想の仕方も教わりましたが、腿が固くて攣りそうになったことも良い思い出です。朝5時からバスオイル・ホールの大祭があり、お寺で知り合ったフランス人とコミュニケーションを取ることができ、貴重な体験でした。

沢山のことを教えてくださった先生方には本当に感謝しています。このような研修に参加出来たことは、日本語能力が上がっただけでなく、語学を学ぶことの大切さも実感しました。様々な国の方々とコミュニケーションをとることは、とても楽しく、自身の成長にも繋がることができました。

またこのような機会があれば参加したいです。





研修レポート

台湾国立屏東科技大学 研修生 陳姿穎

学校が私たちに日本との交流の機会を作ってくれてとても感謝しています。いろいろな国から来た学生たちと一緒に日本語を勉強しました。私たちは互いに交流し、学び、文化の違いを共有しました。日本の研修はとても楽しく、忘れられない経験です。

この3週間の日本での生活では、教室での日本語学習や、多くの課外活動など、いろいろな体験が私を成長させてくれました。例えば、福寿園で抹茶の作り方を学んだことがあります。私は抹茶が好きで、その独特な風味を味わいました。それから、信貴山は静かです、ここで写経と瞑想を初めて体験しました。体験は面白いです、そして私の心が静まりました。それから奈良公園を訪れました。ここにはたくさん鹿がいて、鹿せんべいを持っていたら、鹿に追いかけられ、とても特別な体験でしたが、ちょっと怖かったです。みんなさん一緒に東大寺を訪れ、お寺はとても美しく、古い建築や大仏が印象的でした。すべての活動が私にとって特別な経験になりました。

また、最後の発表もとても好きでした。私は私たちのグループがとても好きです、みんなで協力してレポートを完成させ、私も楽しんでいました。発表の緊張や不安に直面しても、最終的には解決できました。そして、みんなのレポートはとても素晴らしいかったです。

最初の歓迎会での恥ずかしいところから、最後の送別会での賑やかな笑い声と別れ際の名残惜しい抱擁に至るまで、私たちの心には短い時間ながらも深い印象を残しました。この研修の生活は間違いなく私の人生において忘れられない一部となりました。これが私の成長の糧となることを信じています。将来どんな挑戦に直面しても、この経験を力にして、勇気をもって進んでいこうと思います。



日本研修の開講式



日本研修の修了式



研修レポート

台湾国立屏東科技大学 研修生 陳宥霖

こんにちは、屏東科技大学の陳宥霖です。研修プログラムが終わってからはもう一か月が過ぎました。本当に光陰矢の如しですね。僕は今でも、皆さんと一緒に過ごした時間を思い出します。奈良学園大学でいた間に、友達がたくさんできました。ネットワークのおかげで、皆との連絡ができます。僕は発表会で、この三週間は僕の人生の中で一番楽しかったと言いました。この考えは今でも変わりません。何故なら、皆と一緒に研修プログラムでしたことは全部楽しかったです。先生たちの授業は面白くて、分かりやすいし、文化体験も素晴らしかったです。浴衣を着るや尺八をするなど、全部初めてで、すごく楽しみました。特に信貴山での宿泊研修はとても印象深いです。僕は普段、毎食肉を食べます。精進料理を食べるのは初めてです、思ったよりずっとおいしかったですから、ビックリしました。部屋は和室です。そして、大浴場がありまして、最高でした。それから、エクスカッションも絶対に忘れない一環です。奈良と京都へ行きました。僕にとって、奈良のほうが面白かったです。一番印象深いのは東大寺を出たときです。周さんが鹿せんべいを買って、僕に渡しました。嬉しかったですが、すぐに鹿さんに囲まれました。そして、服まで噛まれました。とても面白い経験でした。授業のない日々、僕たちは色々な所へ行きました。大阪城、伏見稲荷大社、貴船神社、宇治、祇園祭、USJ等へ行きました。全部

いい思い出を作りました。でもさすがは夏休み、人はたくさんいました。ある日の放課後、皆と一緒にカラオケへ行きました。僕がBling-Bang-Bang-Bornを歌うとき、クッキーさんが例のダンスをしました。すごく面白かったです。最後はまとめの感想を伝えます。私はこのプログラムに参加して、本当に良かったと思います。先生たちにお世話を受けて、他国の学生や先生と出会って、日本で過ごした時間はとても素晴らしかったです。皆との縁は続ければいいと思います。僕は卒業後、ワーホリで日本で働きたいと思います。この三週間のおかげで、決意が強くなりました。三週間、お世話になりました。ありがとうございます。





研修レポート

台湾国立屏東科技大学 研修生 許廷

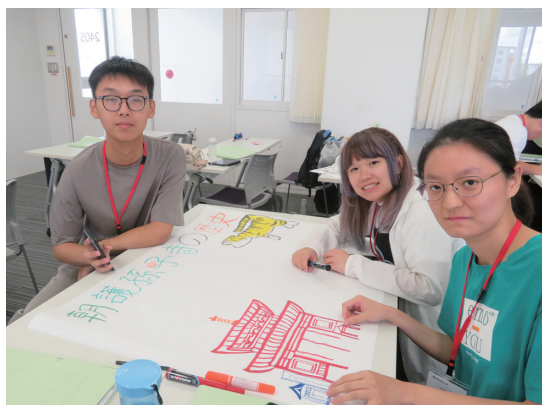
今年の夏休みに日本の奈良学園大学で研修に参加しました。コースは主に日本語と日本文化の体験で構成されており、2回のハイキングと1回の宿泊研修も含まれていました。休日や授業後の時間には観光地に行ったり、祭りに参加したり、美味しい食べ物を楽しんだりして、とても充実した時間を過ごしました。

研修には中国やカンボジアの学生も参加していて、みんなで日本語を学び、さまざまな活動に参加するのは本当に楽しかったです。また、外国の友達を作れたことも嬉しかったです。

奈良学園大学の先生方の授業スタイルは、私が今まで受けてきた日本語の授業と大きく異なり、日常生活の実際の応用に重きを置いていました。日本語の会話と書き方を中心に進められ、日本にいと常に日本語を使うため、自分の日本語の会話の能力が

大きく向上したと感じています。先生方は私たちのレベルに合わせて授業を行い、しばしばサポートを提供してくださり、本当に奈良学園大学の先生方には感謝しています。特に渡辺先生と張先生には、様々な活動に付き合ってください、空港まで送迎していただき、日本での生活に慣れるための指導をしていただき、心から感謝しています。

学生として日本で生活することは、単なる旅行とは全く異なる感覚があります。将来、日本での発展を考えている友達には、留学や仕事を考える前に、まず日本で少しの間生活してみることを心からお勧めします。それによって、自分の目標を達成するためのモチベーションがより高まると思います。





研修レポート

カンボジアメコン大学 EK NEZA

奈良学園大学との3週間のプログラムに参加できたことを大変光栄に思います。私たちは、日本語や日本文化について学ぶために、講師が細心の注意を払って企画した多くの文化関連イベントに参加してきました。さらに、食事や挨拶、態度など日本人の生活習慣についても学びました。日本語を勉強中の留学生にも配慮したカリキュラムとなっており、温かい雰囲気と講師の細やかな配慮で、まるで我が家のように過ごせるようになっていました。

教室は清潔感があり、学生が効率よく勉強できる快適な環境が整っています。学生たちは、異文化環境の中で新しい友達とコミュニケーションをとるために毎日練習することで、日本語を上達させる機会があります。カリキュラムは生徒中心の指導に焦点を当てて構築されており、学生は毎日の学習内容を学習し、実証することができます。これは、学生たちが無意識のうちに日々成長することになる素晴らしい例と経験です。学生たちは、与えられた研究テーマについてのディスカッションを通じて、疎外感を感じることなく、お互いに楽しい友情を築き、交流したり、一緒に過ごしたりすることができました。

これらの内容に続いて、学生たちは音楽、緑茶、日本の史跡、宗教についての紹介など、新しい分野を体験することができました。したがって、このプログラムは学生にとって、ただ生きるために日本語を学ぶのではなく、日本の伝統と文化を学ぶ素晴らしい機会です。日本の古い歴史に沿って、日本人は創造的で規律正しいので、日本が何世紀にもわたって発展してきたことも学びます。彼らはパフォーマンスに努力と時間を費やし、犠牲を払ってくれました。私はそのことに深く感謝しました。

このプログラムは、新しい人々と出会いながら学び、適応するための素晴らしい経験です。さらに、一緒に成長する機会が得られたとき、どの瞬間も価値があることを思い出したことは忘れられない思い出です。私たち全員が完全にそう感じると思います。

It is such an honor to participate in this three-week program with Naragaku University. We have participated in many cultural-related events, meticulously organized by instructors, to learn Japanese and more about Japanese culture. Moreover, we learn about

the living behavior of Japanese people, such as food, greetings, and attitudes. The curriculum is designed with full consideration for international students, who are currently studying Japanese, to make them feel at home with a warm welcoming atmosphere and great care from the instructors.

The classroom is clean and comfortable so that students can study effectively. The students have a chance to develop their Japanese by practicing every day to communicate with new friends in an intercultural environment. The curriculum is built to focus on student-centered teaching, so students can study and demonstrate what they study for every day. It is such a great example and experience that would have the students improve day by day unconsciously. The students could make a happy friendship with each other throughout the discussion of the study topic given, interacting and hanging out without feeling left out.

Following these contents, students could experience new fields such as music, green tea, history sites, and the religion of Japan. Therefore, this program is a great opportunity

for students, yet they do not study Japanese just to survive, but to learn about Japanese tradition and culture. Along with the old history of Japan, we also learn how Japan has been developing for centuries because Japanese people are creative and disciplined; they put effort, time, and sacrifice into their performance which I deeply appreciate.

This program is such a great experience to learn and adapt while meeting new people; moreover, it is an unforgettable memory to remember that every moment is worth it when we have a chance to grow together. I believe we all would totally feel this way.



東アジア文化交流研修レポート

特別聴講生 王忠煜 楊佳豪 尹丹旎 馮晨茜

まず、琉球大学の先生が私たちを歓迎してくださり、琉球大学の歴史と特色を紹介してくださいました。グローバル化が進む今日、中日両国の学術・文化交流は特に重要であり、この活動を通じて、両国の学生が相互尊重と理解に基づく友好関係をさらに深めることが期待されています。私たちは中国の伝統文化と現代の発展を紹介し、日本文化への愛情を表現し、この交流を通じて琉球についてより深く学ぶことを希望しました。中国からの留学生として、日本に来て一番深く感じたことは、両国の文化の違いや共通点を細部にわたって知ることができたことです。

次のディスカッションでは、交流の雰囲気はよりリラックスし、活発になった。私たちは日本の学生たちに、中国の端午の節句や中秋節の伝統的な風習やお祝いの食べ物を紹介した。その後、琉球大学の先生から琉球名物のお菓子を分けていただき、私たちも交流会に参加した先生と学生全員に中国名物のお菓子とささやかなプレゼントを用意しました。食事はこの文化交流の重要な担い手となり、おいしい食事を分かち合いながら、お互いの食習慣や生活様式をより深く知ることができた。

一日の交流活動が終わりに近づくにつれ、皆は今日の体験を通じて異文化交流の機会をより大切にするようになったと語り、グローバル化の中で異文化間の理解と協力が特に重要であることをより深く実感した。琉球大学の学生とは連絡先を交換し、今後とも交流の機会を持つことを約束した。

それから首里城に見学に行った。首里城は、琉球王国中山首里(現在の沖縄県那覇市)にあり、かつて海外貿易の拠点だった那覇港を見下ろす丘陵地にあったグスク(御城)の城趾である。現在は国営沖縄記念公園の首里城地区として都市公園になっている。第二次世界大戦中に焼失後、1992年に柱・壁・瓦など朱色を基調として再建された。しかし、2019年10月31日に正殿など主要7棟が火災で焼失し、その後復興作業が進められている。琉球大学の学生と一緒に首里城に行き、修復中の建物を見ました。チャージとかシギも見ました、チャージは材質は硬いですが加工がしやすく、湿気やシロアリなどに強いという特徴があり、沖縄では古くから建物や家具、仏具に使われてきました。イネマキは、沖縄

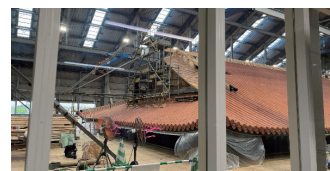
では近年減少の傾向にあります。オキナワウラジロガシは沖縄など南西諸島に分布する日本固有種で、直径1m以上、高210m以上になる樹もあり、硬くてとても丈夫納が特徴です。修復作業を見学した後は一緒に首里城で一番高い建物に登り、沖縄を見下ろすことができました。爽やかな気候と美しい景色が首里城の旅を盛り上げることができました。

最後に私たちはおきなわワールドに行った。おきなわワールドは、沖縄の伝統文化、自然景観、エンターテインメント体験が融合したテーマパークだ。一番の見どころは琉球王国村で、伝統的な琉球建築や民俗芸能を楽しむことができる。また、園内には日本最大級の鍾乳洞として有名な玉泉洞があり、壮大な鍾乳石や地下河川を見ることができる。また、伝統工芸品の製作体験や沖縄料理の試食、伝統舞踊のイベントに参加することもできる。

おきなわワールドの鍾乳洞「玉泉洞」は日本最大の鍾乳洞で、洞内の鍾乳石や柱が夢のような風景を作り出し、壁面には様々な形の自然彫刻が施されている。全長890メートルの洞窟内には約100万個の鍾乳石を見ることができる。澄んだ空気に水の音が響き、神秘的な雰囲気を醸し出している。内部環境は恒温式で、一年中訪れることができる。探検しながら、地下の川やユニークな地質構造を鑑賞し、その形成過程の科学について学ぶことができる。

また、手仕事体験ゾーンでは、沖縄の伝統的な手仕事を体験することができる。琉球ガラスの吹きガラス体験に参加して、自分の手でユニークなガラス製品を作ったり、琉球陶器作りを体験したりすることができる。ワークショップは通常、経験豊富な職人が指導するため、参加者はリラックスした雰囲気の中で学ぶことができる。製作過程では、これらの工芸品の歴史的・文化的意義についても学ぶことができ、完成した作品は貴重なお土産として持ち帰ることができる。

今回の沖縄研修は有り難いチャンスであり、大変勉強になった。沖縄文化を体験したり、沖縄の名所を見学したり、歴史の勉強や沖縄に対する理解を深めた。自分の視野を広げ、より開放的な心で世界と向き合うことは一番成長したところと思う。





令和6年度 奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）

日時

2024年12月11日（水）10:40～12:10（中国現地時間9:40～11:10）

奈良学園大学側会場：3号館3402教室

方式

ZOOMによるオンライン方式

視聴用リンク：<https://us02web.zoom.us/j/85101168851?pwd=z7aBDiMad0Zjuq2tDla2KS20bVHO6u.1>

ミーティングID: 851 0116 8851

パスコード: 277403

テーマ

多文化共生について語り合おう！

プログラム

◎司会：山田 明広（奈良学園大学人間教育学部・准教授）

1. 両学よりあいさつ（10分）

善野 八千子

（奈良学園大学社会・国際連携センター長、人間教育学部・特任教授）

羅 時光

（蘇州科技大学外国語学部日本語学科主任、外国語学部・准教授）

2. 両学学生自己紹介（5分）

3. テーマ討論（40分）

参加者：

奥田 寧香、川上 誓也、西川 力永、甲川 颯大、木村 翔、森下 雄斗、村田 脩平

（奈良学園大学）

蔡 思淼、倪 篠雅、施 佳琪、顔 明星、陳 晶晶、張 博陽、竜 杰、黄 文捷

（蘇州科技大学）

4. 質疑応答（テーマ討論参加者以外）（5分）

5. 奈良学園大学特別聴講生、夏期日本語研修プログラムの紹介（4分）

6. グループに分かれてのフリートーク（20分）

8. 閉会の挨拶・講評（6分）

羅 時光

（蘇州科技大学外国語学部日本語学科主任、外国語学部・准教授）

山田 明広

（奈良学園大学人間教育学部・准教授）



第4回奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会(オンライン)を開催して

人間教育学部 准教授 山田 明広

2024年12月11日、今年度も本学と蘇州科技大学とのオンライン交流会を開催した。今回で第4回目のオンライン交流会となる。

本学は蘇州科技大学と2010年に連携協定を結んで以降、毎年、蘇州科技大学から多くの留学生を特別聴講生として、あるいは夏期日本語研修プログラム研修生として受け入れてきた。だが、コロナ禍のため2020年度以降これらのプログラムが実施できなくなっていた。そこで、コロナ禍でも交流を絶やさないようにしようと、2021年度に第1回目のオンライン交流会を開催した。翌2022年度もまだコロナ禍の最中であって留学生を受け入れるには至らなかったため、この年もオンライン交流会を行うことになった。このようにコロナ禍が原因で始まった蘇州科技大学とのオンライン交流会であるが、回を重ねるごとに内容も充実し、双方の交流がより緊密となっているため、留学生を受け入れるプログラムが再始動した昨年度以降も引き続き実施している。

さて、今年度の交流会では、「多文化共生について語り合おう!」という総合テーマの下、前半はこのテーマにもとづいて両学の学生同士で話し合うという新たな試みに挑戦した。後半は昨年度実施して好評を博したZOOMのブレイクアウトルーム機能によるフリートークを実施した。「多文化共生」がテーマとなると、「異なる国や地域の者同士による共生」ということが議論的となりがちではあるが、それに限定せず、例えば、高齢者と若年者の共生や人間と自然の共生などといったもっと身近に見られる多文化共生によりスポットを当てて議論することを試みた。

この「多文化共生について語り合おう!」というテーマを設定した理由は、次の2点である。

昨年度は「互いの文化や習慣を理解し、違いを認め合おう!」というテーマで「異文化理解」という点については議論できたので、今回はこういった「異なる文化にある人々同士が共生していくにはどうすればいいのか」という点について議論すべきではないかと考えたからである。

また、本学の人間教育学部の授業科目に「現代教育課題D(学校における異文化理解)」があり、主に「多文化共生」や「多文化教育」について学んでいるので、この授業とのコラボレーションにより交流会を実施すると実りあるものになるのではないかと考えたからである。この考えは前述の授業科目の履修学生から受け入れられたようで、多くの履修学生が本交流会に参加する結果となった。

交流会は、私による司会進行の下、まず、本学社会・国際連携センター・善野八千子センター長および蘇州科技大学外国語学部日本語学科・羅時光学科長による開会の挨拶が行われた。続いて、双方の学生による自己紹介の後、今

回からの新たな試みである「テーマ討論」を実施した。

この「テーマ討論」では、前述の「現代教育課題D」の授業を担当している本学人間教育学部のオチャンテ講師が司会を務めた。まず、オチャンテ講師が「多文化共生と聞いてどのようなことを思い浮かべるか」という質問を投げかけ、それに対して本学学生2名および蘇州科技大学の学生3名がそれぞれの考えを述べた。次に、オチャンテ講師から「それぞれの国での多文化共生の具体的な様相について発表してください」といった提案がなされ、それを受けて両学の学生各5名によるプレゼンテーションが行われた。いずれも首尾よくまとめられていたほか、現在我々が直面している社会問題に迫るものであった。

この後、「質疑・応答」に入り、最初に本学学生が中国における身近な多文化共生について質問し、それに対して蘇州科技大学の学生が回答、続いて、蘇州科技大学の学生から結婚式の服装といった文化に関する質問がなされ、それに対して本学学生が回答するといったやりとりがなされた。さらに、オチャンテ講師が内容について多文化共生という観点から説明するとともに、自身の経験や事例を述べるなど、躍動感ある質疑・応答となった。

これに続いて、ZOOMのブレイクアウトルーム機能を用いて「グループに分かれてのフリートーク」を実施し、学生と教員とが混在して活発な交流がなされた。

最後に、蘇州科技大学外国語学部日本語学科長・羅時光先生と私が講評を述べることで、本交流会は幕を閉じた。

今年度の交流会は、両学とも他の多くの授業と時間が重なっていたこともあり、オーディエンスが従来に比べて少なく、学生と教職員合わせて約36名のみの参加に止まった。参加者は比較的少数ではあったものの、テーマ討論とフリートークともに活発な討論や交流がなされ、極めて活気に満ち溢れた交流会となった。これを弾みに、今後、蘇州科技大学との交流がますます盛んになることが期待される。

一方、本学側について言うと、今回は前述「現代教育課題D」の履修学生の大半が参加するなど参加学生数は11名と決して少なくなかったものの、人間教育学部の学生と特別聴講生のみの参加であった。昨年度は保健医療学部の学生の参加もあっただけにいささか残念なことである。

今後、国際交流への参加呼びかけに工夫を凝らすなど一層尽力していきたい。また、本学の学生にはもっと国際交流に目を向け、積極的に異なる文化や価値観に触れる機会を持ってもらい、今後ますます必要とされるであろう「グローバルマインド」を少しでも身に付けていくことを願うものである。





关于第四届奈良学园大学与苏州科技大学文化交流会(线上)

人间教育学院 副教授 山田 明广

2024年12月11日,本校与苏州科技大学共同举办了线上交流会,这次是第四次的线上交流会。

2010年本校与苏州科技大学签订了合作协议以后,每年都接受了许多来自苏州科技大学的留学生作为特别听讲生或夏期日语研修课程研修生。但由于受到新冠疫情的影响,自2020年度起,这些项目无法正常举办。为了在疫情期间中仍不断保持交流,我们在2021年度首次举办了线上交流会。隔年2022年度,因为疫情还在持续,仍无法接受留学生,因此这一年度也再次举办了线上交流会。这一线上交流会虽然最初是因疫情而开始,但随着活动次数的增加,其内容也变得更加充实,并且有助于促进双方更加紧密的交流,因此即使去年留学生接收项目已重新启动,此活动仍然继续举办。

今年度的交流会以“让我们谈论多元文化共生吧!”定为主题,在前半部分我们尝试了新的活动,即让两校的学生就这一主题进行讨论。而在后半部分,我们则延续了去年广受好评的用ZOOM分组讨论室功能进行自由交谈这一活动。当谈到“多元文化共生”时,人们往往会关注“不同国家或地区的人如何共存”这一话题,但这一次,我们不仅讨论这一层面,还尝试关注一些更贴近自身生活的多元文化共生相关议题,例如:老年人与年轻人之间的共生、人与自然的共生等等。

我们这次选定“让我们谈论多元文化共生吧!”这一主题的理由是以下两点。

第一是因为去年度我们以“相互理解彼此的文化与习惯,接受彼此的不同!”定为主题,并已针对“异文化理解”进行了相关讨论,因此认为这次再进一步探讨不同文化背景的人们如何共存这一问题。

第二是因为本校人间教育学院开设了“现代教育课题D(学校中的异文化理解)”这门课,其内容主要涉及“多元文化共生”及“多元文化教育”,而我们认为,如果能将这门课与交流相结合,活动将会更加有意义。这样的想法得到了选修这门课的学生支持,许多这门课的学生积极参与了这次的交流会。

交流会在我的主持下,首先由本校社会国际合作中心善野八千子处长及苏州科技大学外国语学院日语系罗时光系主任致开幕词,接着,双方学生进行自我介绍,然后进行了本次新的尝试,就是“主题讨论”。

在此“主题讨论”环节中,由负责前述“现代教育课题D”这门课的本校人间教育学院奥强特卡洛斯(Ochante Carlos)讲师担任主持人。首先,奥强特讲师提出“当你听到‘多元文化共生’时,会想到什么?”这一问题,然后本校的2名学生与苏州科技大学的3名学生分别发表了对此问题的自己看法。接下来,奥强特讲师进一步提出了“请

针对各自国家在多元文化共生方面的具体情况做交流”这项提案,针对此提案,双方各5名学生进行了自己的发表。每个发表都不仅总结得十分清晰,同时还深入探讨了当今社会所面临的问题。

此后,进入了“问答”环节。首先,本校的一名学生提出了“中国的贴近自身生活的多元文化共生现象有何”这一问题,然后苏州科技大学的几名学生对这一问题进行回答。接着,苏州科技大学的学生询问与结婚礼服等文化相关的问题,本校学生则进行了回应。此外,奥强特讲师从多元文化共生的角度解析了这些讨论内容,并分享自身的经验和具体实例,我们进行了十分生动且充满活力的问答环节。

随后,通过 ZOOM 的分组讨论室功能进行了分组自由交谈,学生与教师一起进行了十分热烈的交流。

最后,通过由苏州科技大学外国语学院日语系主任罗时光副教授及我进行了闭幕讲评,本次交流会就圆满结束了。

本次交流会因时间与其他课冲突,听众较以往减少,学生与教职工合计约 36 名。虽然参与人数相对少,但是在主题讨论和自由交流都进行了活跃的讨论和交流,整个交流会充满了活力。十分期待趁此良机本校与苏州科技大学的交流能够更加频繁且深入。

另一方面,就本校的参与情况来看,尽管前述“现代教育课题D”这门课的大部分学生均有参与,使得本校参与学生总数达到 11 名,由人间教育学院的学生和特别听讲生组成。因为去年保健医疗学院的学生亦有参加,这次则有些遗憾。

今后,我们鼓励学生积极参与国际交流等等会更加努力。此外,也希望本校学生能更加关注国际交流,主动接触不同的文化和价值观,一点点地培养日益所需的“全球化思维”。



奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流(オンライン) ～身近なところから考える多文化共生～

人間教育学部 講師 オチャンテ・カルロス

昨年12月に、蘇州科技大学の学生とオンラインで交流する機会を得ました。これまでSDGsなどのテーマについて、両大学の学生同士が発表や討論を行ってきましたが、今回は本学の科目「現代教育課題D」に所属する学生が参加し、本科目の学習内容である異文化教育の視点を生かして「身近な共生」というテーマを設定しました。

本科目では、異文化教育や多文化共生の理解を深めることを目的としています。多文化共生とは、単に異なる文化を持つ外国人住民との関わりに留まるものではありません。同じ国籍であっても、ジェンダーや年齢による価値観の違いが存在し、さらに議論を広げると、人間と自然の共生も社会全体における重要な課題となります。そのため、学生たちはこれまで考えたことのなかった「共生」というテーマに対して新たな視点を持ち、ディスカッションを通じて多様な意見を交わすことができました。

交流会当日では、「高齢者と子どもの価値観の違い」、「学校における配慮が必要な子どもたち」、「人間と自然の共生」といった幅広いトピックについて議論が展開されました。発表の中で、日本と中国の共通する課題が浮き彫りになり、両国の学生がそれぞれの社会における問題意識を共有する場となりました。

発表後の質疑応答では、学生同士が積極的に意見を交換し、それぞれの国の文化や価値観に基づいた独自の視点を提示することで、相互理解を深める貴重な機会となりました。特に、日本と中国の教育制度の違いや、地域社会における支援のあり方について活発な意見が交わされ、参加者全員が多くの学びを得ることができました。本交流を通じて、学生たちは異文化理解の重要性を再認識し、今後の学習や日常生活においても共生の視点を持つことの大切さを実感したと思います。



Naragakuen University and Suzhou University of Science and Technology Cultural Exchange (online)
"Reflecting on Multicultural Coexistence in Everyday Life"

Last December, we had the opportunity to engage online with students from Suzhou University of Science and Technology. In the past, students from both universities have delivered presentations and debated topics related to the Sustainable Development Goals (SDGs). However, this time, students from our university's course Modern Educational Issues D participated and set the theme of Coexistence in Our Lives, drawing on the perspective of intercultural education, which is the focus of this course.

The aim of this course is to deepen students' understanding of intercultural education and multicultural coexistence. Multicultural coexistence is not merely about interacting with foreign residents from different cultural backgrounds. Even among people of the same nationality, differences in values arise due to factors such as gender and age. Expanding the discussion further, coexistence between humans and nature is also a critical societal issue. Through this course, students were able to explore new perspectives on coexistence that they had not previously considered and exchange a wide range of ideas through discussion.

On the day of the exchange meeting, discussions covered a broad array of topics, including "differences in values between the elderly and children," "children requiring special consideration in schools," and "coexistence between humans and nature." During the presentations, common issues shared by Japan and China were highlighted, providing students from both countries with an opportunity to reflect on and discuss challenges within their respective societies.

In the question-and-answer session following the presentations, students actively exchanged ideas and shared their unique perspectives, shaped by the cultures and values of their respective countries. This dialogue proved to be a valuable opportunity to deepen mutual understanding. Notably, there was a lively discussion on the differences between the Japanese and Chinese education systems and the role of local communities in providing support, from which all participants gained significant insights.

Through this exchange, students were reminded of the importance of intercultural understanding and recognized the need to maintain a perspective of coexistence in both their academic pursuits and daily lives.



みんなが同じ教室で過ごすためには

PPT

人間教育学部 2011446 奥田 寧香

みんなが同じ教室で過ごすためには

2011446 奥田 寧香(おくだ しずか)



学ぶことが少し苦手な子どもとは…？

困ったこと

- ・授業について行けない。
- ・勉強に集中するのが難しい。
- ・友達とうまく話せない。
- ・忘れ物をしてしまう。
- ・感情をコントロールすることが難しい。



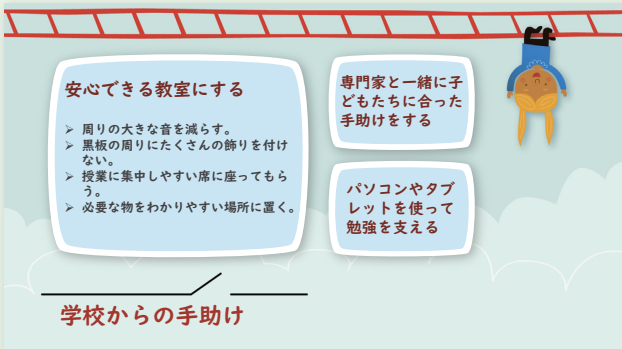
安心できる教室にする

- 周りの大きな音を減らす。
- 黒板の周りにたくさんの飾りを付けない。
- 授業に集中しやすい席に座ってもらう。
- 必要な物をわかりやすい場所に置く。

専門家と一緒に子どもたちに合った手助けをする

パソコンやタブレットを使って勉強を支える

学校からの手助け



私たちができること

友達の性格を理解し、
みんなで助け合う



教室の様子

休み時間

授業中





身の周りの共生

PPT

人間教育学部 2111418 西川 力永

身の周りの共生

～お金が少ない家族 と 多い家族で 勉強
や 学校生活の差 が できるのか～
2111418 西川力永

もくじ

- ▶ 家に お金 が ないと 勉強 に 差 が
生まれるのか
- ▶ クラスで 家 の お金 の 差 が ある
子供たちの 共生
- ▶ 学校で 先生が 子供の 家 の お金 の
差を 考えずに みんなと同じ勉強を
できるように するのか



家に お金 が ないと 勉強 に 差 が 生まれるのか

- ▶ 学校で かかる お金
- ▶ どんな 家族と 一緒に
暮らしているか や
家族の サポートの 差



クラスで 家 の お金 の 差 が ある 子供たちの 共生

- ▶ いろんな 暮らし方や
考え方の 人との 共生を
分かる ように なる 勉強
- ▶ いじめを しない みんなが
仲良くする 勉強



学校で 先生が 子供の 家 の お金 の 差を 考えずに みんなと同じ勉強を できるように するのか

- ▶ その子供が 一番 わかりやす
い 勉強の 仕方を 考える
- ▶ 生活の 仕方が 違う 人を
大切に 思い
わかり合う心を 考える





年れいの違い人との共生 PPT

人間教育学部 2111414 川上 誓也

ねん ちが ひと きょうせい

年れいの違う人との共生

～はたらきやすい学校づくりをめざして～

2111414 川上 誓也



昔と今の学校の違い？

昔	今
・体罰は当たり前 ・勉強を押し付ける ・外で遊ぶ場所がたくさんあった ・本や辞典で調べる	・ほめて伸ばす教育 ・子供が自分から勉強するまで待つ ・ゲームや家で遊ぶことが増えた ・ICTを使って調べる

みなさんも年上の方と意見が合わないことはありませんでしたか？

ICTを使うのは難しいな、もっと勉強をさせよう

もっとICTを使うべき、子供が勉強しようとするまで待とう

昔の学校はこうだったのになあ...

今の学校はこうなのになあ...

教育についての考え方の違いがある

💡 年れいの違う人と共生するために 💡

相手のことを知る	昔と今の違いを比べる
学校で共生するためには『相手のことを知る気持ち』が大切です！！	
教えあう	今の子供たちを知る



外国人の労働環境

PPT

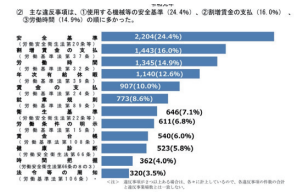
人間教育学部 2211412 中川 星愛羅

外国人の労働環境

2211412 中川星愛羅

外国人の労働環境

- ・使用する機械等の安全基準
- ・割増賃金の支払い
- ・労働時間



レイシャルハラスメント

- ・外見や文化的な特徴をからかう
- ・プライベートに踏み込みすぎる
- ・不適切な誉め言葉を使う

レイシャルハラスメントが起こる原因

- ・職場の多様性の高まり
- ・ハラスメントとして十分に浸透していない
- ・コミュニケーションを避けてしまう

私たちにできること

- ・多様なルーツを持つ人たちと働いていることを意識する
- ・相手のプライバシーを尊重する



高れい者とこどもの価値観の違い

PPT

人間教育学部 2211227 甲川 颯大

高れい者と子どもの 価値観の違い

こうがわそうた
2211227 甲川 颯大



価値観（かちかん） とは？

・1人、1人ちがう考え方を
持っているということ。



高齢者と若者

日本では、世代間のちがいによって、
高れい者と子どもでは、生活、価値観、考
え方など、さまざまところで大きなちが
いがある。



生活環境

コミュニケーション：高れい者は、対面のコミュニケー
ションを大切にする。子どもは、SNSやメッセージアプリ
など非対面でのコミュニケーションをする。

お買い物：高れい者は、お店での買い物やモノを大切
にする傾向がある。若者は、オンラインショップなどで買
い物。



価値観

休みの過ごし方：高れい者は、読書や旅行、趣
味の活動など、ゆったりとした時間を過ごす。
若者は、友達と遊ぶ、イベントに参加するなど、
アクティブに過ごす。

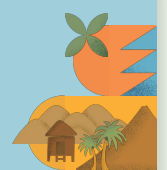


考え方や生き方

変化 時間

高れい者は、安定した生
活、変化をおそれる。
若者は、新しいことに
チャレンジする。

高れい者は、時間をじっくり
と考える。
若者は、短時間で多くのこ
とをこなそうとする。



なぜ世代の違いが生まれるのか？

社会の変化

情報技術の発展、
価値観など社会が
大きく変化してい
る。

経験の違い

高齢者は、高度経済成
長期やバブル経済期を
経験している。
若者は、グローバル化
や少子高れい化といっ
た社会問題を抱える時
代。

情報

情報量に大きな違いがあ
るため、お互いの状況や
考え方を理解することが
難しい。



まとめ

これから高れい者も子どもも
協力していい社会にしていこうために...

- ・お互いを理解しようとする
- ・コミュニケーションの機会を増やす。
- ・いろんな価値観を受け入れる。



台湾文化交流研修から得た貴重な経験

保健医療学部 溝口 みちる先生

令和7年2月24日(月)から3月1日(土)までの6日間、保健医療学部看護学科2名、リハビリテーション学科1名の合計3名が台湾文化交流研修に参加し、国立屏東科技大学を訪問した。2009年に本学と連携協定を締結し、社会・国際連携センター主催の台湾文化交流会として国立屏東科技大学を訪問するのは初めての試みである。

国立屏東科技大学は、今年で創立100を迎えた大変歴史のある大学である。大学の敷地内は端から端まで約3kmあり、学生は授業を受ける教室から教室までバイクで移動をしている。敷地内は幼稚園や野生保護動物収容センター、職業犬訓練センター、宿泊施設「迎賓館」など、学部以外の施設がある他、大きな学食やコンビニエンスストアが2カ所もある、敷地面積が広い大学である。

今回、国立屏東科技大学を拠点に文化交流研修の目的である①国立屏東科技大学の学生との交流会(英語交流会、日本語交流会)②台湾南部のエクスカージョン(屏東県内の教育機関、医療機関の訪問)を実施した。

国立屏東科技大学の学生との英語交流会・日本語交流会

英語交流会に参加したのは、2月より春学期がスタートした2回目の授業日であった。留学生はインドネシア、マレーシア、フィリピンなどのアジア圏内や、セイント・クリストファーアンドネービス、セントビンセント・グレナディーン諸島、バリーズ、タンザニアなどの中米やアフリカからの13名であった。自国での教育施設が不十分であること等から、実験や研究のスキル向上を目指す学生が留学している。1グループ4～5名の留学生に本学学生が加わり、英語で自己紹介をした後は、英語に自身がないと言っていた本学学生も自然と打ち解けていた。本学学生とのコミュニケーションを図るなかで、日本人は必ずしも誰もが英語を話せるとは限らないということを伝え、英語は世界共通語ですべての人が話せると思っていた留学生が衝撃を受ける場面があった。



英語交流会



日本語交流会①(日本文化紹介)

日本語交流会①では2限目に日本語専攻の履修生50名に対して、日本語交流会②では3限目に日本語専攻の履修生60名に対して、それぞれ本学学生がプレゼンテーションを行った。

3限目は、日本のアニメについてプレゼンテーションを行った。「となりのトトロ」と「千と千尋の神隠し」を紹介し、登場するトトロとカ



日本語交流会②(折り紙)

オナンを折り紙で作成した。本学学生は履修生の進捗状況を確認しながら机間し、折り方を伝授していた。

最初、学生は緊張して思うように伝えられなかったと振り返っていたが、緊張が解れると自分らしさを出して日本の文化を伝えることができた。

屏東県内の教育機関、福祉施設の訪問

美和科技大学看護学科を訪問した。1966年に専門学校として発足し、2010年に私立看護大学となり約60年の歴史がある。台湾の看護師国家試験は、以前は1年に2回あったが、2024年より1年に3回行われるようになった。受験回数が増えた理由は、多くの人が合格できるようにするためである。昨年7月の看護師国家試験の合格率は、美和科技大学は80%であったが、台湾全体では40～50%と、看護師の資格を得るには日本より厳しい状況であるということがわかった。学生は、看護師国家試験の受験回数や合格率について、日本との違いに驚き質問をしていた。卒業後は、台湾で看護師として働く以外、日本で介護の仕事をするために北海道へ行く予定である、日本語を話せる卒業生もいた。



美和科技大学看護学科見学

福祉施設は、屏東県多層級生活照顧服務園區を訪問した。屏東県政府から任命され、運営管理は法人委託となっている施設である。住宅型介護施設、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅サービスなど、多彩な事業を展開している。特に認知症の方のサポートに力を入れていて、福祉施設であるが研修教室や研究棟があり、



福祉施設見学

施設と連携していた。台湾でも65歳以上の方が約20%(16万人)、認知症の方が20%となっていて、高齢化の波は日本と変わらない状況であることがわかった。作業療法で学んでいることがこの施設で実際に活用されている様子も見学できた。

台湾文化交流研修を終えて、日本で学びたい、働きたいという今後の目標をしっかりと持った学生が多かった。そして、常に向上心を持った学生と出会い、その生き生きとした姿から、本学学生の感じ方や捉え方、考え方に影響を与えた。偶然にも、以前から興味のある分野の視察を行うことができた学生は、更に深く学びたいという思いが増し、論文を探して読んでみると報告してくれた。医療職を目指すものとして、広い視野を持ち、物事を深く考え、実践力を養うことにつながったのではないかなと思う。

何より、国立屏東科技大学の先生方や国際事務センターの方々、学生の方には、大変お世話になった。台湾へ到着した時から文化交流研修までアテンドしていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。次回も機会があれば、是非とも参加したい。

景観レクリエーション
管理研究所療養庭園の見学



異文化体験とコミュニケーションから 学んだこと

保健医療学部 2131210 川島 真夕

今回、研修に参加した私の目的は、①幅広い視野で物事を考え、柔軟な思考を養うこと、②他国の人とコミュニケーションを通して、自分自身を表現する力や、他者を理解する力を養うこと、であった。

今回の研修は、私にとって初めての海外渡航であった。今まで、海外に行く機会はなく、私の人生の中で無縁だと考えていた。しかし、研修という機会をいただき日本の外へ一歩踏み出してみると、私が想像していた以上に世界が広く感じた。台湾は日本と似ていることが多くあるが、日本では見られない街の風景、習慣、そして食事など、台湾でしか見ることのできないものも多くみられた。私は、日本と異なる点を見つけるたびに、これまで日本だけの狭い見解にとらわれて、自分が住んでいるところが全てだと思い込んでいたことに気づいた。自分がみたことのないものに興味を抱くようになったうえ、知らない世界を寛容的に学習する姿勢が大事だとわかった。

また研修を通して、初めて他国の学生とコミュニケーションをとった。初めは、言葉や文化の異なる外国の方と話すことは、相手がどのように考えているのか読みづらいため、不安が大きかった。特に私は、英語を話すことが苦手なため、どのように相手とコミュニケーションをとっていくのか自身の課題であった。

英語研修では、主に東南アジアの4人の学生と交流を行った。授業での共通言語は英語で、主に学生同士で自己紹介を行ったり、日本のお菓子を紹介した。そこで学んだことは、相手の言葉が正確にわからなくても、表情や身振り手振り、そしてリアクションなどの非言語的なコミュニケーションを通して、自分の気持ちを大きく表現することである。これまで、自己開示を行うことは苦手であったが、文化や習慣が異なる外国の方と、良好な関係を築きコミュニケーションを取るためには、自分はこういった人間で、どのような考えを持っているのかを、自分から示していくことが重要であると実感した。

また、日本文化交流や日本語を勉強する台湾の学生との交流を通して、私自身の心の持ちようが変化した。これまで相手に何かを伝えたり、大勢の前での発表のする時、私は過度に緊張してしまう性格であった。それは相手からどう思われるのかと過度に考えたり、失敗を恐れて完璧を求め、緊張する自分に対して『緊張してはならない』と自分

自身にプレッシャーをかけていた。しかし今回の研修を通して、どのように伝えたら相手が理解してくれるのかを考え続けたり、相手の反応をみて分かりやすい日本語に変えたりするなど、ベクトルを自分から相手に向けることができるようになった。そのきっかけとなったのは、研修で出会った台湾の学生である。彼らとはよく日本語で私たちとコミュニケーションを行った。しかし、全ての学生が日本語が完璧ではなく、知っている単語を繋ぎ合わせたりする中で、何とか懸命に日本語で伝える姿があった。間違いや失敗を恐れず、『日本語で日本人の学生に伝えたい』という強い思いが見受けられ、失敗を恐れずに挑戦する彼らの姿に感銘を受けた。相手に伝えたいという気持ちを持ち、日本人の私たちに興味を持って接する姿から、『相手にどう思われるだろう』と自分自身にベクトルを向きすぎることなく相手に意識を向けて話すことの大切さがわかった。

加えて、そのような彼らの懸命な姿をみて、私は寛容な心を持つようになった。どのように話すか考える台湾の学生に対して、間違った言葉でも最後まで聞く姿勢を持つことができた。他者にも自分にもおおらかな気持ちで許す心をもつことは、心の余裕が生まれ、失敗を恐れずに、外国の方とのコミュニケーションに挑戦できるきっかけになると考える。コミュニケーションは言葉のキャッチボールであるが、異国間同士のコミュニケーションを通して、相手に意識をむけ発信する大切さを学ぶことが出来た。



台湾文化交流研修を終えて、異文化体験とコミュニケーションから学んだこと

保健医療学部 2131237 安井 海陽

今回の5泊6日の台湾文化交流研修を通して、特に学んだことはコミュニケーションのツールである言語は、勉強するために学ぶのではなく、自らしたいことを目的に楽しく学ぶことである。私は台湾の同い年くらいの日本語が流暢な子に“どうやって日本語を勉強したの?”と質問した。するとその子は、「言語は学ぶ、覚えるために勉強するのではないよ。“なにをしたいか”を目的に言語を学んだよ。」と教えてくれた。今回の研修の中で特に私はこの言葉が印象的だった。実際、その子はアニメが好きでたくさんのアニメを日本語で聞いていた。さらにその子以外にも今回の研修で出会った台湾の人たちは、同様に好きなアニメを日本語で聞き、字幕を中国語で見ている人も居れば、毎日日本のニュースを確認する人、日本でのアルバイトを考えている人、日本へ行くためのお金を貯金している人、日本の大学を目指している人などそれぞれのやり方で日本語と触れ合い、一人一人の楽しいやり方で言語を知っていた。

またコミュニケーション以外にもその対象者らしい環境についても学ぶことが出来た。対象者が子供であれば、子供は子供、大人は大人とするのではなく、子供の時から経験し、制限しない環境のある幼稚園があった。例えば、園庭に道路の標識があったり、子供の乗り物は道路に沿うように走行できる環境となっていた。また幼稚園内に実際のフライパンや電子レンジを置き、料理が出来るようになっていたり、工作では葉を使って布を染めたりと日常的に自然に触れる環境を子供の時から作っていた。そして対象者が動物となると、虐待を受けていた動物やサーカスにいた動物などを保護する施設が屏東大学内にあった。また対象者が障がいや疾患を持つ人では、車椅子の人や片麻痺のある人、心疾患のある人に沿って園芸をする花壇の高さが変わっていたり、認知症の人に沿って散歩のコースを円とし、スタートからゴールまで認知症の人が自ら達成することのできる残存機能を活かす環境となっていた。それらは、その対象者らしい生き方が出来ると共に、リラクゼーションにも繋がる環境となっていた。また同じ看護学校という括りでも、台湾では本物の人体標本で解剖生理学を学んでいたりと、福祉施設では施設周囲に柵はなく、隔離施設もなく開放的であった。しかし安全な生活かつ、その人らしい生活が出来るようAIと共存して転倒などの感知するセンサーがあったり、火の消し忘れがないようスイッチ部分にタイマーがあった。加えて、施設内の人だけで認知症の人の安全を考えるのではなく、市民や警察にも認知症についての知識を共有することでその国全体で認知症の人の安全を守

るようになっていた。

私はこれまで海外へ行ったことがなく、研修へ行く前は“海外は怖い”という恐れがあり、これまで海外に行く勇気がなかった。その理由としては、日本とは異なる文化や言語という新たな環境に踏み込むのが怖かったからだ。確かに今回の研修で、読めない中国語ばかりのコンビニエンスストアの商品、車よりバイクの多い環境、そして左車線ではなく、右車線で読めない標識や道路標示、はっきり聞こえているのに話している内容が分からない環境、毎日お祭りのように屋台がたくさん並び夜市など見たことのない新たな環境ばかりであった。しかしそんな新たな環境の中でも今回の5泊6日は毎日苦痛ではなく、台湾の人たちと話すのが毎日の楽しみとなり、あっという間であった。その理由は、今回の研修を通して言語だけではなく笑顔や身振り手振り、そしてお互いが持っている英語や日本語の単語だけでも国境は違うが相手と繋がることができると学ぶことができ、海外に行く怖さが楽しみや挑戦、考えの視野を広げるきっかけとなることが分かったからだ。また私だけでなく、一緒に行った先生や友達、そして台湾の人たちみんなが初日から最終日になるにつれて自然と笑顔になる場面が多かったと感じた。そのため“日本語以外が話せないから話さない”、“話せないから、何が起るかわからないから海外に行かない”と壁を作るのではなく、単語だけでも、そして非言語コミュニケーションや翻訳と出来ることを最大限に使い、挑戦し、積極的にコミュニケーションをして経験することが大切である。今回の研修で新たな台湾という環境を五感を通じて知り、国境を越えたコミュニケーションをすることで新たな発見や新たな価値観を知ることができた。その中には日本とは異なることだけでなく、近い年齢の台湾の学生や英語交流で出会った留学しているフィリピンやインドネシア、タンザニアの学生と関わり、国境を越えてもどこか共通点のある部分もあるのだと身をもって知ることが出来た。今回の研修で海外への挑戦の一步を踏み出すことができ、今後も自分の視野を広げるため、そして日本で看護師として働く中で出会う日本人以外の対象者も救うことのできる看護師を目指して、今後多くの国を訪れていきたい。





異文化体験とコミュニケーションから 学んだこと

保健医療学部 2332209 富山 陽一

私は今回、初めて外国に行くので、そこでの言葉の違いや違和感を事前に想像することなどまったくできなかった。高雄空港で、台湾の学生たちと初めて会った時、私は、彼らの歓迎の熱烈さに大いに驚いた。それは「奈良学園大学の皆さん～台湾へようこそ～」「とみやまくん!!」といきなり呼びかけられたからだ。彼らが日本語で話しかけてくることなどまったく想定していなかった。

初めは言葉が通じるかものすごく不安だったけれども、台湾の学生たちが一生懸命に日本語で話しかけてくれる様子に、「このままでは何かあかん!」と思い、分かりやすい日本語で話そうとするようになっていた。しかし、なんかいつも話している言葉とは少し違うような気がした。日本語だけでなく、英単語を織り交ぜながら話していたということもあるが、なぜか言葉の抑揚がなくなるというか言葉が単調になっている不思議な感覚に包まれた。

その後の実際の会話では、携帯電話の翻訳機能(Google翻訳)などを使いながら、会話することができたが、深い話のところでは、台湾の学生はAI(ChatGPT)の翻訳機能を駆使していた。AIの使い方の是非が日本で問題視されているが、異文化国際交流の場においては、このようなAIの使い方、お互いの理解がとても深まることに気がついたのは私にとって大きな収穫だった。

園芸治療や福祉施設などの見学に行った時に、担当の方が英語や台湾語で説明されていたが、前に出ていたスライドや話している単語によって、大体何となく内容が理解できていたような気がしていた。何か質問したいことがあ

っても、相手の言葉が話せないと、翻訳してくださる方がいたとしても、訳してくださる方の知識量に応じた質問(特に専門分野の知識や用語)になってしまい、本当に自分の望んだ質問をしてくださっているか分からないということになるなと感じた。

園芸治療(園芸療法:園芸が心を癒すこと)にはもともと興味があったが、台湾では、患者の心身の状況を踏まえて、花壇の高さや形状が使い分けられていることや、患者が五感を働かせることができる、さまざまな仕掛けがあった。例えば、水が流れる音をじっくり聴くことができる水場(聴覚)、目で見て楽しめる色彩豊かな花々が植えられている花壇(視覚)、香りの強いハーブなどの植物に手を触れ、匂いを嗅ぐこともできる(触覚・嗅覚)、植えてある野菜を収穫して料理して食べることができる(味覚)などがあった。自分が興味を持っていることについての初学が「英語」であったことによって、この分野をより深く学ぶためには「英語」が必要であるということを痛感した。

福祉施設である屏東縣政府多層級樂活照顧服務園區は、高齢者施設と介護研究施設が併設され、AIを使った研究成果がすぐに高齢者介護福祉に活かせるシステムになっていた。

幼稚園には園庭に道路があり、まるで日本の自動車学校のような施設があった。これは、超クルマ社会(歩道がない道路が多い)である台湾で生き抜く術を幼少期から身につける教育がなされていると感じた。





2024年度 セブ語学研修

人間教育学部 2411106 嵯峨根 葵 2411113 山崎 結菜
2411211 永田ほのか 2411220 吉村 陽葉
2411411 鈴木 乃愛

1. はじめに

2月9日曜日から3月9日曜日の1か月間セブ島に語学研修に5人で参加した。月曜日から金曜日は英語の学習に取り組み、土曜日と日曜日には学外での課外活動を行った。

2. 研修を終えて

〈One-On-One〉

One-On-Oneの授業では、リスニング、スピーキング、ライティング、会話を中心に勉強した。クリフエッジの文を考えるのも、この授業内で行われる。先生は、私の拙い英語でも、何を言いたいのかを汲み取り、正しい英語を教えてくださいました。英語のみの授業となっているため、初めは大変だった。しかし、聞き取れなかったり、わからない単語があったりした時には、先生がゆっくり話してくださるため、質問もしやすかった。また、時間が経つにつれて少しずつ会話ができるようになり、成長を実感できるのが嬉しかった。一週間ごとに担当の先生が変わるため、初めの授業では、英語で自分のことについて話したり、先生に質問をしたりして、仲を深めることを中心に行われた。セブ島のおすすめのお土産や、観光地、食べ物などたくさんを教えてくださいました。そのため、先生とも仲良くなることができ、先生が変わった後でも、世間話をして友達のように話すことが多かった。

〈グループレッスン〉

◆ 授業内容

グループレッスンは1日50分×4コマ行われる。語学留学前に行ったテストをもとにグループ分けがされており、それぞれに適した授業が展開されている。授業では、教科書(リスニングや文法など)を使った学習のほか、学生同士でのディベートや英語を使ったゲームなど、さまざまな内容が取り入れられている。

◆ 感想

私は英語が非常に苦手で、正直あまり勉強してこなかったし、全く話せなかった。だから、最初は不安でいっぱいだった。しかし、同じレベルの仲間と一緒に学ぶうちに、次第に英語で人と話すことや、英語を使って自分の思いを伝える楽しさを感じられるようになった。

何かを伝えようとしたとき、スムーズに話せずに詰まってしまうことが多かったが、周りはいつも優しく聞いてくれ、私の話に耳を傾けてくれた。そのおかげで、伝えようとし続けることで必ず相手に伝わることを実感し、英語で何かを伝える楽しさを感じることができた。

また、人前で恥ずかしがらずに自分を表現できるようになったため、グループレッスンは自分の可能性を広げる素晴らしい機会になったと感じている。

〈Cliff Edge〉

「Cliff Edge」は、2〜3分のスピーチを1週間かけて完成させ、毎週金曜日に発表するECC独自のプログラムである。毎日のOne-On-One授業の1コマでスピーチの構成や発音、暗記の練習を行い、授業外でも宿舎で練習を重ねた。

このプログラムを通じて、ライティング・リーディング・スピーキングの向上だけでなく、人前で英語を話す力やジェスチャーなど、多くのスキルを習得できた。最初は1週間で作成できるか不安だったが、宿舎での勉強や先生方のサポートのおかげで乗り越えられた。すべて英語でのやり取りだったため、英語を英語で理解

する力がつき、日本語を使わずに学ぶことで上達が早まったと感じる。

先生方は常に励ましの言葉をかけてくれ、自信を持って発表できる環境が整っていた。発表時には先生や生徒の反応があり、最後まで自信を持って取り組めた。また、発表後には先生からフィードバックをもらい、改善点と良かった点を知ることによって、次回への意欲も高まった。こうした経験を通じて、英語でのコミュニケーションがさらに楽しくなった。

〈観光〉

1週目土曜日の市内研修では、テンプル オブ レイア、セブ道教寺院、サント ニーニョ教会、サン ペドロ要塞、ヘリテージ オブ セブ モニュメント、ヤップ サンディエゴ アンセストラル ハウスをガイドの方に案内して頂いた。

テンプル オブ レイアとセブ道教寺院とでは、古代ローマ式、中国式という相違があり、構造やデザインの違いが興味深かった。サント ニーニョ教会やサン ペドロ要塞、ヤップ サンディエゴ アンセストラル ハウスでは、大昔から残存する大砲や像、家の様子などからセブ島の歴史を学ぶことが出来た。

自由行動の休日には、シラオガーデン、TOPSなどの有名スポットでの観光、また、ホテルのデイユース、セブ島唯一の遊園地であるアンジョ・ワールド・テーマ・パーク、ジンバイザメと泳ぐツアーなどを利用した。送迎車やタクシー、施設のスタッフ全てが現地の方々なのに加え、フレンドリーな現地の方も多く、英語を使って会話をすることが多々あり、アクティビティを楽しみつつ、人との交流も楽しむことが出来た。

〈ボランティア〉

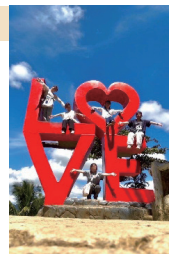
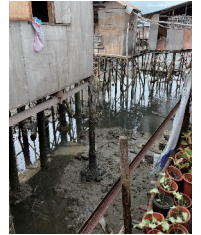
私たちは、2025年2月22日土曜日に、海上スラムでボランティア活動を行った。スラムへ行くために道を一本入ると、世界は一変した。私たちがよく見るデザインされた建物とは違い、木の板やレンガ、トタンで作られた建物が密集していた。

到着後、スラム内にある教会で、約22人の子どもと交流をした。まず余興として、ダンスを披露し合った。その後は、折り紙でハートや手裏剣、パクパクと一緒に折って交流を深めた。他にも、一緒にバレーボールをして楽しんだ。

私はこのボランティア活動で、貧富の差を実際に目にした。冒頭で述べた建物の件に加え、スラム内では大人も子供も、皆痩せ細っていた。スラム以外でも、町の道端で段ボールを敷いて寝ている家族を見かけたり、観光していると物乞いが来たりと、様々な場面に遭遇した。この経験は、世界の平等性を考える重要な機会となった。そして、一人ひとり違う境遇を理解するために、必要なことだと考えた。

3. さいごに

1か月間のセブ島での語学研修を通じ、英語力の向上だけでなく、異文化交流を経験し、視野が広がった。実際に海外に行かなければ感じることもできない貴重な体験をすることができた。このセブ語学研修をご支援いただいた大学・先生方に感謝する。これからは、学んだことや感じたことを多くの人に伝えていきたい。





日本の教育環境における格差と是正についての考察 —家庭環境を中心に—

蘇州科技大学 楊佳豪

日本の教育環境における 格差と是正についての考察 —家庭環境を中心に—

奈良学園大学人間教育学部
特別聴講生：2491101 楊佳豪
担当教員：中田浩司 先生

目次 CONTENTS

- 01 はじめに
- 02 日本における教育格差
(1) 日本の教育の変化
(2) 地域による教育格差
(3) コロナ禍による教育格差の拡大
(4) 政府財政と教育政策の関係
(5) 物価上昇が教育に与える影響
- 03 家庭環境の教育に対する影響力
(1) 家庭の経済的影響
(2) 家庭の文化的影響
- 04 教育格差を是正するための提案
(1) 経済的負担の軽減
(2) 家庭教育に対する支援
(3) 公教育の充実
- 05 おわりに

第一章 日本における教育格差

教育格差の定義

教育格差とは、子供の生まれ育った環境（ここでは家庭環境と、地域や学校間の格差も含める）によって学力や学歴などに不平等が生まれてしまうこと。これは将来的な職業や収入にも影響を与える。

家庭環境の違いで、学びの出发点や環境が異なり、子供たちの可能性に差がつくとしたら、それは魔法が明示する教育の機会均等の理念に反しているのではないだろうか。

(1) 日本の教育の変化

1. 政府の政策
1984（昭和59）年以降、政府の教育制度改革によりボトムアップ型からプルトップ型へと教育の路線が変更された。
2. 社会環境の変化
高校の進学率は大幅に上昇し、1974（昭和49）年には90%を越えた。高校全入時代となり、高校の入学試験の重要な選抜の機能が失われていった。
3. 教育環境の変化
塾や通信教育などの学習サービス業の発達。
公教育だけでは、不十分になり、塾や私立校などの選択肢は、学力低下を克服するための有効な方法だと考えられるようになった。
しかし、金額の面では、一般の家庭にとっては安いものではない場合が多い。家庭経済の差が、教育格差を拡大した。

(2) 生まれ育った地域の格差

都市部は地方より

1. 人口が多い（特に若い世代）
2. 財政収入が多い
3. 公共交通やサービス業の発達
4. 教育環境の充実（塾などの選抜が多い。）
5. 学校におけるICTの整備
6. 教育に関する資源や支援活動が多い。

(3) コロナ禍による教育格差の拡大

学校方面

学校によって、対応策は違いがあり、一部の学校は前もって通信整備やインターネット授業の準備が可能であったが、条件が整っていない学校では、授業の実施自体が困難であった。

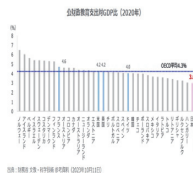
家庭方面

通信環境の整っていない一部の家庭では、授業を受けることができなかった、あるいは、ハイクオリティな授業を全部受けることができなかった。

ネット上の教育資源はこれまで以上に多くなり、ネット授業を受けることと有料授業の購入ができる家庭とそうではない家庭の格差が広がった。

(4) 政府財政と教育政策の関係 (5) 物価上昇が教育に与える影響

- ・日本政府の教育支出費は少なく、家庭に必然的に頼る必要がある。
- ・家庭の収入格差があるため、教育格差につながっている。
- ・富裕層では物価の上昇が家計に与える影響が小さく、十分な教育支出を行える。
- ・貧困層と中間層では、生活を優先させるために、教育に対する支出を抑えなければならない。



第二章

家庭環境の教育に対する影響力

(1) 家庭の経済的資本の影響

学習機会

富裕層の家庭では、追加的教育資源が多い。（塾、家庭教師）私立校に行く、留学に行くなど。
進学率は家庭の経済状況によって違う。

学習環境

富裕層の家庭では良い学習環境が整備されている。

食生活や健康

子どもの食生活や健康にも学習成果に影響する。





(2) 家庭の文化的資本の影響

1. 親の教育観や育児方針の影響

・教育を重視する親は子どもに対して学習教材や教育補助資料を提供し、積極的に子どもの教育に参画する。
・学習支援や宿題の指導、日常的に学校生活での出来事や学習成果を確認する。進路相談に積極的に応じる、学歴の重要性を説明する。

2. 親の社会的ネットワークと教育への波及効果

・社会的地位の高い親は、キャリアや教育などに関する最新情報を持つ。
・情報格差は存在している。

3. 親の職業が子どもに与えるモデル効果

・親の職業は子どもの価値観の形成と将来の職業選択に影響を与える。

(1) 経済的負担の軽減

1. 教育費支援の精度向上。

- ・高等教育では、授業料の免除と返還を要しない給付奨学金制度の拡充。
- ・初等教育では、給食費無償化を実施する。

2. 地方の教育資源格差の縮小。

- ・地方の教育への交付金などを拡充して、教育環境を改善する。
- ・地方教師誘致プログラムを実施する。

(3) 公教育の充実

01 教師の質と専門性向上

教師がより高度な教育技術を学習するため、持続的な教育プログラムを行う。(TAF)

02 義務教育段階での学習内容の充実

学習塾に通わなくても十分な学力が身につくことを目指し、義務教育段階での授業内容をさらに充実させる。

03 教育の公平性を確保する制度の設置

教育のモニタリング機関を設立する。教育政策の効果や教育成果を監視し、データに基づいて改善を行う仕組みを構築する。(Ofsted)



参考文献

【サイト】
(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm
https://www.mext.go.jp/content/202404619-mxt_00033-000036463_8.pdf
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/2/1316125.htm

(財務省)

https://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/proceedings/material/zaiseia20231011/03.pdf

(ベネッセ教育総合研究所)

https://benesse.jp/berd/up_images/research/oyako_tyosa_2021.pdf

(その他参照サイト)

https://gooddo.jp/magazine/poverty/educational_inequality/
<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/c0390bcc8eb16bc2148e91efbc03a5567bd6593>
<https://prdx.co.jp/vision-prdx/teach-for-america/>
<https://www.santankyo.jp/articles/460ad9bb-0673-4245-8b9c-8b96ca186b8d>

第三章

教育格差を是正するための提案

(2) 家庭教育に対する支援

保護者向けの教育支援プログラム。

- ・教育における保護者の役割や効果的な家庭学習方法を学べるプログラムをオンライン講座という形で無料配信する。

- ・家庭教育カウンセリングを実施する。

参考文献

【図書】

宇沢弘文,『日本の教育を考える』,岩波新書,1998.
小堀隆士,『教育を経済学で考える』,日本評論社,2003.
橋本俊昭,『日本の教育格差』,岩波新書,2010.
橋本俊昭・八木匡,『教育と格差—なぜ人はブランド校を目指すのか』,日本評論社,2009.
耳塚寛明,『教育格差の社会学』,有斐閣アルマ,2014.
樋口美雄,『日本の所得格差と社会階層』,日本評論社,2003.
額井正也・池田貢市,『教育格差—格差拡大に立ち向かう』,現代書館,2006.

【論文】

池本美香,『諸外国で進む学校の第三者評価機関の設置とそこから得られる示唆—子どもの権利実現に向けた学校参加・学校選択・学校支援』,『JRIレビュー』7 (79); 日本総研, 2020, pp.83-112.
金子由美子,『コロナ禍で加速する生きづらさと、格差等に困る子どもの兆候』,『教職研修』,2023, 1月号, pp.96-98.
中村環仁,『家庭環境による教育格差に挑むために、学校ができること』,『教職研修』, 2023,1月号, pp.89-92.
前川史彦,『日本における教育格差—ブルトアップ型教育がもたらしたもの—』,『香川大学経済政策研究』, 2011, pp.65-85.
増田博俊,『保護者の学校参加に関する一考察』,『東京大学教育学研究科教育行政学論叢』, 第28号, 2009, pp.55-77.

ご清聴ありがとうございました！



視覚障害者の誘導方法に関する考察

—施設・設備とアプリケーションの提案— PPT

黒龍江東方学院 王 忠煜

視覚障害者の誘導方法に関する考察 —施設・設備とアプリケーションの提案—

特別聴講生 中島ゼミ
2491102 王忠煜

2 研究方法

対象：奈良学園大学で「特別支援」の授業を受講している大学生151名。

期間：2024年10月15日

方法：Googleフォームで作成したWeb 質問紙で実施した。回答項目は16項目で、一部を表1・2に記載した。視覚障害者の誘導方法について主として5方法で回答を求めた。

4 結果 (1)

- アンケート対象者151名のうち、回答が完全であった149名の回答を有効回答とし、分析対象とした。
- 解答を A.とても必要（1点）、B.必要（2点）、C.どちらともいえない（3点）、D.不要（4点）、E.とても不要（5点）とし、それぞれ平均点と標準偏差を求めた。
- さらに、アンケート項目を視覚障害者・聴覚者とも便利、視覚障害者のみ便利、視覚障害者のみ必要の3種類に分類して表1・表2に整理した。（注目した値には赤で印を付けた）

種類	アンケート項目	平均	標準偏差
視覚障害者・聴覚者とも便利	4-1 2 街基地図でわかる位置情報にAI音声ガイドを組み合わせてナビゲーション。	2.14	0.96
	4-1 4 次の授業が行われる教室の場所と移動経路を伝える時間前リマインダー。	1.77	0.92
	4-1 9 音声聞くことと目的地や移動経路がわかるように教えてくれる機能。	2.06	1.07
	4-1 3 移動先の教室内に誰がいるかが分かるように教えてくれる機能。	2.51	1.21
視覚障害者のみ便利	4-1 5 大学からの最寄り駅の場所と移動経路の案内。	1.94	1.01
視覚障害者のみ必要	4-1 6 目的地までの残り歩数の案内。	2.76	1.30
	4-1 7 看板の内容やパワーポイントの内容を音声で読み上げてアナウンスしてくれる機能。	1.92	1.00
	4-1 8 学内のいろいろな場所にQRコードを表示しておき、QRコードを読み取ると現在地がわかる機能。	2.41	1.28

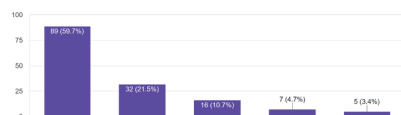
視覚障害者・聴覚者にとっての便利さ（施設・設備）

視覚障害者・聴覚者とも便利

4-2 駅から学校までの直通バス

右肩下がりのグラフで設置について賛成が多いことがわかる

駅から学校までの直通バス（構内で乗り入れる）。
149名の回答



1 はじめに

視覚障害があると周囲から得ることができる情報は他の障害に比べると非常に少なく外出などの際には積極的な誘導が必要。

奈良学園大学における誘導方法について、施設・設備とアプリケーションの両面から研究を行う。



3 倫理的配慮

- 調査にあたり、下記の説明を対象者に行い同意の得られた場合のみ回答を得た。
「本研究の目的は、施設・設備とアプリケーションに必要な提案内容をアンケートによって明らかにすることです。このアンケートの調査データは厳重に保管され、統計的に処理されます。個人のプライバシーの保護については十分配慮し、あなたにご迷惑をおかけすることはありません。ご協力いただきました調査データに基づき課題研究論文を作成し、奈良学園大学に提出することを予定しております。研究目的以外には使用いたしません。上記の趣旨を理解いただき、率直にありのままのお考えをご回答ください。なお、調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなことが不利益を被ることはありません。アンケート調査への回答によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。」

表1 視覚障害者・聴覚者にとっての便利さ（施設・設備）

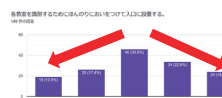
種類	アンケート項目	平均	標準偏差
視覚障害者・聴覚者とも便利	4-2 駅から学校までの直通バス（構内で乗り入れる）。	1.70	1.06
	4-3 各教室を識別するためにほんのりにおいを付けて入口に設置する。	3.12	1.25
	4-1 0 階段の踊り場などの床を別々の明るく色にして、階数がわかるようにする。	2.19	1.18
	4-1 1 リアルタイムの時刻を音声でアナウンスする。	2.50	1.27
視覚障害者のみ必要	4-4 座席に点字で名前を書く。	2.13	1.20
	4-5 特別教室の入口や普通教室の入口に教室番号を点字で設置。	1.45	0.74
	4-6 校舎図などの案内板を点字で表示する。	1.34	0.73
	4-7 自動販売機で商品名を点字で表示する。	1.56	0.84
	4-8 階段の手すりの先に点字で現在の階数などを知らせる。	1.46	0.84
	4-9 校舎内の廊下に誘導用の点字ブロック（通常の4分の1サイズのもの）を設置する。	1.59	0.80

4 結果 (2)

- アンケート項目をグラフで表した。
- 右肩下がりのグラフより「必要」



- 「どちらとも言えない」が一番高い両肩下がりのグラフ



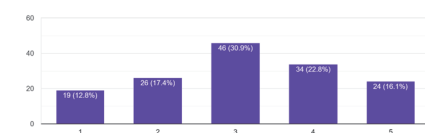
視覚障害者・聴覚者にとっての便利さ（施設・設備）

視覚障害者のみ便利

4-3 各教室を識別するためにほんのりにおいを付けて入口に設置する。

両肩下がりのグラフで設置について「どちらとも言えない」が多いことがわかる

各教室を識別するためにほんのりにおいを付けて入口に設置する。
149名の回答





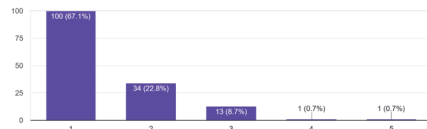
視覚障害者・晴眼者にとっての便利さ（施設・設備）

視覚障害者のみ必要

4 - 5 特別教室の入口や普通教室の入口に教室番号を点字で設置。

右肩下がり強いグラフで設置について賛成が多いことがわかる

特別教室の入口や普通教室の入口に教室番号を点字で設置。
149 件の回答



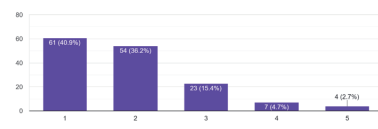
視覚障害者・晴眼者にとっての便利さ（アプリケーション）

視覚障害者のみ必要

4 - 17 黒板の内容やパワーポイントの内容を音声で読み上げてアナウンスしてくれる機能。

右肩下がりのグラフで設置について賛成が多いことがわかる

黒板の内容やパワーポイントの内容を音声で読み上げてアナウンスしてくれる機能。
149 件の回答



5 考察

5-1 研究の限界と新たな視点

本研究の限界は、対象が晴眼者であることから結果も晴眼者の視点であり、晴眼者の視点で考察している。

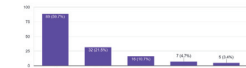
反対に、晴眼者が陥りがちな考え方や考える方向を指摘することができると思われる。

さらに、施設設備は、視覚障害者を誘導するためだけでなく、晴眼者に対して啓発。

5-2 施設・設備について

誰にとっても有益である「直行バス」については効果的であるとする回答が多かったが、「においや明るい色どこにあるのかわかりやすくする」という視覚障害者のみに役立つような施設整備、「においが嫌いな晴眼者」にとっては迷惑になる可能性があり、「あまり必要としない」と回答したのではないかと考えられる。

直行バスに関する回答（「直行バス」は「直行バス」）。
149 件の回答



各教室を誘導するために黒板の読み上げやアナウンス機能。
149 件の回答



5-3 点字の使用について

点字を使った施設設備の設置は、全般的に支持が多かった。

しかし、設備の設置だけでなく、情報の受け入れやすさや複雑さなど、実用性の問題についても考察する必要がある。

特別教室の入口や普通教室の入口に教室番号を点字で設置。
149 件の回答



5-4 共生社会実現のために

共生社会の実現という視点から、黒板の内容やパワーポイントの内容を音声で読み上げてアナウンスしてくれる機能に注目し考察したい。

この機能の提案について、「先生が視覚障害者に事前にスライドを送って予習させれば、理解にも役立つ」という意見があった。

黒板の内容やパワーポイントの内容を音声で読み上げてアナウンスしてくれる機能。
149 件の回答



障害者が望んでいるのは特別扱いではなく、授業内容を事前に知ることよりも、アプリケーションの機能などの外部リソースの助けを借りてクラスメートと一緒に学ぶことであり、「自分はそれほど特別な存在ではなく、普通のひと何ら変わりはない。」という環境を保障することである。そうすれば、自尊心を保つことができる。

やはり、バリアフリーの施設を考える上で一番大切な必要があるのは、自尊心をはじめとした障害のある方の心を大切にすることである。



6 今後の課題

中国と日本ではバリアフリー施設やサービスのあり方に大きな違いがある。

中国では一般的に障害者を支援する介助員がいるのに対し、日本では障害者を誘導・支援する施設が好まれる傾向にある。

もちろん、人的介助が最も思いやりがあり、効果的な支援であることは否定できないが、人的介助にかかるコストや、高齢化の傾向を考えると、今後、障害者を誘導・支援するための施設の利用を増やすことも考える必要があるのではないだろうか。



参考文献

- 文部科学省(2024) (1) 視覚障害教育: 文部科学省 (1) 視覚障害教育。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shouhou/okubetuu/mext_00801.html (閲覧日2025年1月10日)
文部科学省(2011) 視覚障害に関する学校における配慮事項 (案) 文部科学省 資料5-1: 視覚障害に関する学校における配慮事項について。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/046/siryo/attach/1311167.htm (閲覧日2025年1月10日)
文部科学省(2020) 特別支援教育におけるICTの活用について。文部科学省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料。
https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-00009772_18.pdf (閲覧日2025年1月10日)
渡辺哲也, 加賀大樹, 小林真, 西谷和範. (2018). 視覚障害者のための触覚サービスに関する調査。ヒューマンインタフェース学会論文誌, 20(2), 147-152.
周正彦. (2017). 公共空間における視覚障害者の移動環境に関する研究。岩手県立大学社会福祉学部紀要, 19, 3.
蔵前, 熱心剛, 藤田誠, 王春陽. (2024). 基于视觉障碍人群需求分析的生活性街道无障碍环境评价——以哈尔滨历史城区为例. 科技导报, 42(17), 139-145.
方野, & 陈松. (2024). 面向视觉障碍人群的城市步行系统化策略研究. 建筑与文化, (3), 108-110.
高木, & 黄松. (2022). 视觉障碍群体教育环境空间设计的功能性. 现代设计学报, 42(4), 156-160.
青木, & 関川. (2023). 基于智能化视觉障碍者导向交互系统设计研究. 设计, 1(10), 352-154.
温昕. (2019). 基于建筑计划学的特殊学校视觉障碍学生宿舍的无障碍导向性设计研究. 建筑与文化, (11), 174-176.
熊野, Liu, M., & 劉明. (2019). 视觉障碍者感知行为分析及应用. 艺术科技, 32(09), 244-245.
郭朝明, 杨国民, 段文豪, & 郭朝明. (2019). 人工智能+特殊教育: 深度学习融合设计. 中国远程教育, 8, 10-19.
雷江. (2018). 基于视觉障碍者地铁无障碍导向空间研究——以西安地铁导向系统为例. 艺术科技.
柯序, & 雷江. (2015). 我国视觉障碍儿童心理研究的进展. 现代特殊教育, (12), 26-30.



日本語における男ことばと女ことばの違いに関する一考察

—日本の小学校1年生の国語教科書における男ことばと女ことばを参考にして—

黒龍江東方学院 尹 丹旻

奈良学園大学

日本語における男ことばと女ことばの違いに関する一考察

—日本の小学校1年生の国語教科書における男ことばと女ことばを参考にして—

発表者：尹丹旻
指導教官：高岡 昌子
報告日：2025/2/06

課題発表

奈良学園大学

- 01 研究の背景
Background Of The Thesis
- 02 研究内容
Overview Of Research Ideas
- 03 結論まとめ
Thesis Conclusion Overview

奈良学園大学

01 研究の背景

Background Of The Thesis

奈良学園大学

論文の背景

Background Of The Thesis

日本語においては、男ことばと女ことばが存在することが明らかで、興味深い。男女の心理的な違いのため、男女の言語に今も違いが存在するようである。

中国と日本における一人称代名詞の変遷における違い

中国：

中国においては、国家共通言語の普及を継続的に推進してきた。そして現在中国においては、政策によって人々との間の用語の違い、特に性別による違いはみられなくなっている。

我 吾 余 予 台 朕 卿 臣 等々

↓

我

中国と日本における一人称代名詞の変遷における違い

日本：

現代日本語においては、今も様々な一人称代名詞が使われていて、性別による違いも依然としてみられる。その理由について、現代日本においては身分制度こそなくなったが、日本社会を構成する一人一人にはまだ昔の人間関係の意識が残っていて、性別による違いもあるのではないかと考えている。しかし今後は中性化する傾向にあると言われている（小林(2020)etc.）。

小林 美恵子「『談話資料 日常生活のことば』にみる女性のことばの「中性化」」ことば、現代日本語研究会、2020 年 41 巻 p. 3-20

奈良学園大学

02 研究の概要

Overview Of Research Ideas

奈良学園大学

先行研究

村田(2018)⁽⁷⁾は、小学校1年生用の国語科の教科書(上巻)における「女ことば」の出現頻度を調べている。この研究では、文部科学省の検定教科書として、小学校一年生で使用されている以下の5つの出版社による教科書を調査対象にしていた。

- a. 学校図書(2017)「みんなとまなぶ しょうがっこうこくご 一ねん上」
- b. 教育出版(2017)「ひろがることば しょうがっこうこくご 一上」
- c. 三省堂(2017)「しょうがっこうこくご 一年 上」
- d. 東京書籍(2017)「新編 あたらしいこくご 一上」
- e. 光村図書(2017)「こくご 一上 かさぐるま」

奈良学園大学

先行研究

しかし、2023年(令和5年)4月発行の小学校用教科書目録(2024年(令和6年)度使用)によると、文部科学省の検定教科書として、小学校一年生前期で使用されているのは、以下の3つの出版社によるものであった。

- a. 教育出版(2024)「ひろがることば しょうがっこうこくご 一上」
- b. 東京書籍(2024)「新編 あたらしいこくご 一上」
- c. 光村図書(2024)「こくご 一上 かさぐるま」

(7)村田年(2018)「国語教科書の中の「女ことば」—小学1年生用教科書(上巻)を資料として」『日本語と日本語教育』46:45-71慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター紀要, p49

奈良学園大学

本研究では、小学国語の採択教科書は3種類のうち**光村図書の国語の教科書は全国で60%以上の占有率**であり、日本で最も使用されている教科書といえるということである (株式会社キョーエープロダクション/kyoei-pro.com/blog/2023/02/10/post-4218-7.html)

さらに、留学中の奈良学園大学がある**奈良市の公立小学校においては光村図書の国語の教科書が採用されている。したがって、本研究においては、光村図書の教科書を対象に研究することとした。**

次に、小学校一年生のこくご上巻を対象にした理由について述べる。先行研究である村田(2018)⁽⁷⁾における研究対象が**小学校一年生の上巻のみで、平成29年の光村図書出版社(2017)⁽⁹⁾「こくご 一上 かさぐるま」**であることから、。本研究でも同じ**光村図書の小学校一年生のこくご上巻を対象に調べることにした。**



調査研究

研究対象：

本研究では、文部省検定教科書、光村図書小学校国語科用(1年生)上巻1冊を調査研究対象資料とした。

研究方法：

光村図書の「こくご 一上 かざぐるま」(2024)の各単元における性別で異なる一人称代名詞と文末形式の言葉の出現頻度を調べ、表にまとめた。



主な結果

光村図書の小学校1年生国語上巻の教科書(2024)における性別に関わる一人称代名詞と文末形式の出現回数

項目	平成27年度(第1期)																																項目	平成27年度(第2期)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000
1. 国債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

表から分かるように、最も出現頻度が多い一人称代名詞は「わたし」であり、出現回数は13回であった。次は「ぼく」であり、出現回数は12回であった。この他にも性別で使用頻度が異なると思われる文末形式の中で、「~~だ~~よ」の出現回数は4回で、次に「~~だ~~ね」と「ぞ」の出現回数いずれも2回である。上記の指標以外の指標の出現回数は全くなかった。

「ぼく」と「わたし」が使われていたところ

p 93においては、スカートを着た女の子の吹き出しに「わたし」と書かれていて、ズボンをはいた短髪の男の子の吹き出しに「ぼく」と書かれていた。



光村図書の国語教科書(2024) p 93から抜粋



2017年の教科書の表紙をあけてすぐの頁(0頁)には、文字がたくさんあった。



新しい2024年の教科書の表紙をあけてすぐの頁(0頁)は、文字自体が少なくなっていた。



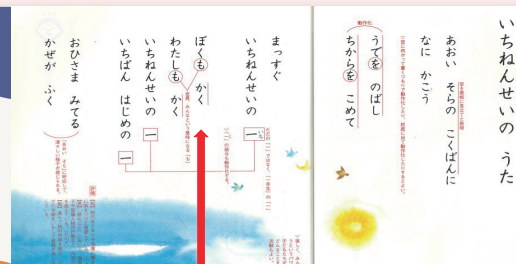
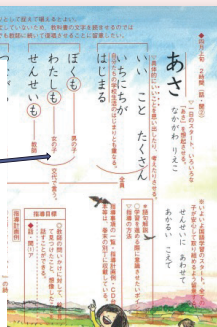
2017年の教科書の表紙をあけてすぐの頁(0頁)の「ぼく」と「わたし」について

問題点

指導書においては、

「ぼく」の下に「男の子」が言う
「わたし」の下に「女の子」が言う
ように赤字で書かれていた。

2017年の教科書指導書



改善点 新しい2024年の教科書指導書における「ぼく」と「わたし」の下には、誰が言うのかは指示されていなかった。

03

結論 まとめ

Thesis Conclusion Overview

結論・まとめ

中国語の小学校1年生の語文(国語)の教科書では、一人称代名詞はすべて「我」であり、男女の差はない。

日本の小学校1年生の国語の教科書では、一人称代名詞には「わたし」と「ぼく」があり、男女の差が明示されているが、指導書における変化をみると、その明示は少なくなっていくのではないかと考えられた。



結論・まとめ

中国語では、歴史的・社会的理由により、将来の中国語においても男女の用語の差異は今後も見られないと考えている。日本語においても、未来においては自由度が高くなり、中性化がより進むのではないかと考えている。

引用文献

- (1) 広辞苑 第七版 (2018) 新村 出(編集) 岩波書店, p938
- (2) goo辞書 げん-ご【言語】の解説。
<https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E3%81%92%E3%82%93%E3%81%94/#:~:text=%E3%81%92%E3%82%93%E2%80%90%E3%81%94%E3%80%90%E8%A8%80%E8%A9%E3%80%91&text=%E9%9F%B3%E5%A3%B0%E3%82%84%E6%96%87%E5%AD%97%E3%81%AB%E3%82%88%E3%81%83%E3%81%A6%E3%80%81%E4%B8%BA,%E8%A8%80%E8%AA%9E%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%83%96%E3%83%AA%E8%A8%80%E8%A9%E3%81%AA%E3%81%A9%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E3%80%82>
- (3) 遙絶 (2009) 「80后」男女作家用語的性別差異」[D]. 安徽大学10.7666/d.d203966, p1
- (4) 史耕山 張尚蓮 「国内語言性別差異研究概述」[J]. 外語教學, 2006, 27(3):4. DOI:10.3969/j.issn.1000-5544.2006.03.006., p24
- (5) 三宅和子 (2004) 「日本語の世界を探索する (三)ー日本語の男女差を考えるー」東洋, 第41巻1号東洋大学通信教育部, p1
- (6) 山下早代子 (2019) 「女性ことば研究の今ーその傾向と動向ー」年報, 第5号 2019年3実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所, p17
- (7) 村田年(2018)「国語教科書の中の「女ことば」ー小学1年生用教科書(上巻)を資料として」「日本語と日本語教育」46:45-71慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター紀要, p49

- (8) 佐竹久仁子(1998)「<女ことば/男ことば>規範をめぐる」現代日本語研究会(通号19), p54-p58
- (9) 光村図書 (2017) 小学校1年生用の国語科の教科書(上巻)「こくごー上 かざぐるま」
- (10) 光村図書 (2024) 小学校1年生用の国語科の教科書(上巻)「こくごー上 かざぐるま」
- (11) 伊藤俊一 (2020) 「仮名漢字変換が小学生の作文の可読性に及ぼす影響」愛知教育大学研究報告:教育科学, p121-125
- (12) 大内良彦・岡部千草 (1993) 「挿絵から受ける児童のイメージと読みとの関連」茨城大学教育実践研究12 (1993), 331-345 p331
- (13) 張鳳霞 (1996) 「中国語、日本語における人称代名詞の使用とそこに窺われる文化の違い」語文論叢, 23, 千葉大学, p1-19
- (14) 关威 (2006) 「五四新文化时期两性伦理观念的嬗变」[J]. 中国社会历史评论 2006(1):22. DOI:CNKI:SUN:SHLS.0.2006-00-012., p306
- (15) 中国语言生活状况报告2023
https://baike.baidu.com/item/%E4%B8%AD%E5%B8%B0%E8%AF%AD%E8%A8%80%E7%94%9F%E6%B4%B8%E7%8A%B6%E5%B6%B5%E6%B8%A5%E5%91%A82023?fromModule=lemma_search-box

- (16) 平野御子 (2023) 「女ことばってなんなのかしら?: 「性別の美学」の日本語」河出新書, 河出書房新社, p49
- (17) 中村桃子 (2021) 「「自分らしさ」と日本語」筑摩書房, p77
- (18) 小林千草 (2007) 「女ことばはどこへ消えたか?」光文社新書, 光文社, p15
- (19) 友田健太郎 (2023) 「自称詞〈僕〉の歴史」河出新書, p193

参考文献

- 中村桃子 (2012) 「女ことばと日本語」 岩波新書, 岩波書店
- 水本光美 (2015) 「ジェンダーからみた日本語教科書 日本女性像の昨日・今日・明日」大学教育出版
- 寿岳章子 (1988) 「ことばづかいの昭和史」岩波ブックレット NO. 111, 岩波書店
- 中村桃子 (2007) 「女ことば」はつくられる」
- 中村桃子 (2013) 「翻訳がつくる日本語: ヒロインは「女ことば」を話し続ける」白澤社

- 古川弘子 (2024) 「翻訳をジェンダーする」筑摩書房
- 鎌田顕子, 新崎隆子 (1992) 「英語は女を変える 同時通訳者が見たコミュニケーションの不思議」はまの出版
- 牛山恵 (2014) 「ジェンダーと言葉の教育 男の子・女の子の枠組みを超えて」国土社
- 日本語ジェンダー学会 (2024) 「日本語とジェンダー」第22号, 日本語ジェンダー学会
- 遠藤織枝 (2024) 「寿岳章子「女ことばと憲法と」かもがわ出版
- 遠藤織枝, 小林美恵子, 桜井隆 (2010) 「世界をつなぐことば: ことばとジェンダー/日本語教育/中国女文字」三元社
- 中村桃子 (2024) 「ことばが変われば社会が変わる」筑摩書房
- 小林美恵子 (2020) 「『談話資料 日常生活のことば』にみる女性のことばの「中性化」ことば, 現代日本語研究会, 2020, 41巻 p.3-20

ご清聴ありがとうございました

日本語における男ことばと女ことばの違いに関する一考察
ー日本の小学校1年生の国語教科書における男ことばと女ことばを参考にしてー

発表者: 尹丹麗

課題発表

村田さんの研究対象とした2017版と、今回研究対象とした2024年版では、「わたし」と「ぼく」の出現回数はさほどかわらなかったが、指導書における指示事項には違いがあった。

きめつやいやば等の日本の漫画やアニメから女ことばや男ことばがあることを知り、興味を持ちました。



中日における家族と友人を対象として「謝罪」の比較研究 —中国語母語話者と日本語母語話者の視点からの分析—

黒龍江東方学院 馮晨茜

PPT

中日における家族と友人を対象とした「謝罪」の比較研究

—日本語母語話者と中国語母語話者の視点からの分析—

発表者: 馮晨茜 学籍番号: u2491104

目次

CONTENTS

はじめに

言語表現 謝罪文化 面子文化

アンケート調査

結論

はじめに

本研究の主なテーマである「謝罪」は、普遍的な社会的行為であり、人間関係においても欠かせない要素であり、重要な社会的および文化的意義を持っている。文化的背景、言語習慣、面子的概念、社会的役割などといった各種要素は、謝罪行為に影響を与えうると考えられ、これらの違いにより、謝罪の頻度や方法、態度が異なってくると考えられる。

言語表現

先行研究によれば、中国と日本の謝罪にはある程度の定型表現が存在する。中国でよく使われる謝罪表現は「对不起」（すみません、申し訳ない）「不好意思」（恥ずかしい；面目ない）「抱歉」（申し訳ありません；恐縮です）である。これに対して、日本でよく使われる謝罪表現は「すみません」「ごめんなさい」「申し訳ありません」となる。

謝罪文化

中日両国の謝罪文化は、形式や実践において明確な違いがあるが、核心的な価値観には共通点が見られる。それは、人と人との関係を修復し、集団の調和と社会秩序を維持することである。両国とも集団主義や社会的責任を背景にしており、他者の感情を大切にし、関係を重視するという点では一致している。一方で、強調される点や表現の手段は異なる。中国の謝罪文化は、通常は間接的な手段で面目を失うことを避けることに重点を置いているが、日本の謝罪文化はより直接的かつ形式的で、責任と誠実さが強調されている。

面子文化

- 1、中国
中国では、謝罪はしばしば「面子」文化と密接に関係してくる。個人が謝罪を行う際に双方の社会的地位や相手の感情を考慮することがよくある。そのため、謝罪の仕方は面子問題によって制約されることが多い。特に家族、友人、同僚間でのやり取りにおいては、謝罪は面子の問題が絡むことにより非常に複雑になることがある。
- 2、日本
池田（1993）にて「日本人は、特に相手が目上の場合には、説明・弁明ではなく、明確な謝罪表現（すみません、など）と責任承認と併用し、相手のフェイスを尊重することを重視する。また、「誤解」のような自分に責任のない場面でも責任を認めるストラテジーを使うことがある」と説明されているように、日本にも面子文化は存在する。日本人は謝罪を通して自分の過ちに対する反省や、他人に迷惑をかけたことに対する後悔を繰り返し表現することがよくあるため、公開の場での謝罪は必ずしも「面子を失う」結果にはならず、むしろ誠実で責任感のある行動として評価されることがある。

アンケート調査

アンケート表題
謝罪の言語行動についての調査調査対象
日本語を母語とする学生48名、中国語を母語とする学生48名

調査の目的

アンケートの内容

アンケートの問題の意図

調査結果

調査結果の分析と比較

今後の課題



目的

友人および親との間で過ちを犯した後の謝罪において見られる言語、態度、行動パターンについて、中日間の違いを探る。



家族や友人といった親密な関係にある者どうしの謝罪は面子の問題が絡むことにより複雑な様相を呈すると考えられる。

アンケートの内容

問題一、友達との間で間違いを起こした時、一番よく使う謝罪の言葉は何ですか？

問題二、友達に謝る時、通常、態度はどのようなですか？

問題三、友達と食事をする時、あなたははっきり隣に座っている友達の服に食べ物をこぼして、汚してしまいました。あなたは友達に何を言いますか？

問題四、両親が間違いを犯した場合、あなたに謝りますか？

問題五、両親が謝るとき、通常、何を言いますか？

問題六、両親があなたに謝る時、通常、態度はどのようなですか？

問題七、両親と一緒に食事をする時、あなたははっきり隣に座っている両親の服に食べ物をこぼして、汚してしまいました。あなたは両親に何を言いますか？

調査結果

問題一、友達と間違いを起こした時、一番よく使う謝罪の言葉は何ですか？

中国調査結果		
謝罪語	小計	比例
「对不起」	23	47.96%
「对不起呀」	22	45.73%
「抱歉」	7	14.17%
「道歉」	2	4.17%
その他	0	0%
有効回答数	48	

日本調査結果		
謝罪語	小計	比例
申し訳ありません	0	0%
すみません	9	18.42%
ごめんなさい	36	73.86%
謝らない	0	0%
その他	5	10.42%
有効回答数	48	

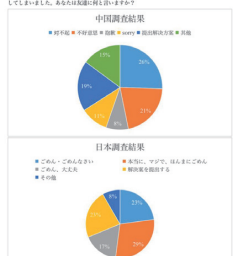
問題二、友達に謝る時、通常、態度はどのようなですか？

中国調査結果		
謝罪時	小計	比例
直接	35	72.92%
何物も言わず	7	14.58%
謝罪の言葉を添えて	4	8.33%
謝罪文を添えて	2	4.17%
その他	0	0%
有効回答数	48	

日本調査結果		
謝罪時	小計	比例
直接	36	75%
少しおそれている	7	14.58%
謝る必要はないと考えている	3	6.25%
謝罪に抵抗している	3	6.25%
その他	1	2.08%
有効回答数	48	

調査結果

問題二、友達と食事をする時、あなたははっきり隣に座っている友達の服に食べ物をこぼして、汚してしまいました。あなたは友達に何を言いますか？



問題四、両親が間違いを犯した場合、あなたに謝りますか？

中国調査結果		
謝罪時	小計	比例
經常	6	12.5%
時々	18	37.5%
頻りに	29	60.42%
決して	5	10.42%
有効回答数	48	

日本調査結果		
謝罪時	小計	比例
よく謝る	30	62.5%
たまに謝る	14	29.17%
謝らない	4	8.33%
一度も謝ったことがない	0	0%
有効回答数	48	

調査結果

問題三、友達と食事をする時、あなたははっきり隣に座っている友達の服に食べ物をこぼして、汚してしまいました。あなたは友達に何を言いますか？

中国調査結果		
謝罪語	小計	比例
对不起	14	29.17%
对不起呀	9	18.75%
抱歉	7	14.58%
道歉	10	20.83%
その他	0	0%
有効回答数	48	

日本調査結果		
謝罪語	小計	比例
申し訳ありません	0	0%
すみません	3	6.25%
ごめんなさい	40	83.33%
謝らない	3	6.25%
その他	0	0%
有効回答数	48	

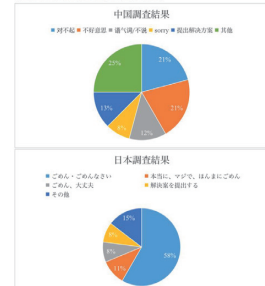
問題五、両親が謝るとき、通常、何を言いますか？

中国調査結果		
謝罪時	小計	比例
直接	14	29.17%
何物も言わず	10	20.83%
謝罪の言葉を添えて	9	18.75%
謝罪文を添えて	7	14.58%
その他	0	0%
有効回答数	48	

日本調査結果		
謝罪時	小計	比例
直接	27	56.25%
少しおそれている	9	18.75%
謝る必要はないと考えている	0	0%
謝罪に抵抗している	11	22.92%
その他	1	2.08%
有効回答数	48	

調査結果

問題七、両親と一緒に食事をする時、あなたははっきり隣に座っている両親の服に食べ物をこぼして、汚してしまいました。あなたは両親に何を言いますか？



結論：アンケート結果から言えること

- (1) 日本語の謝罪表現は中国の謝罪表現よりも多様性があり、感情表現がより細かい。中国では「对不起」が最も一般的な謝罪の言葉で、日常生活では簡単に使われることが多い。一方、日本では「ごめんなさい」、「すみません」、「申し訳ありません」など、状況に応じて使い分けられ、感情や状況に応じたより繊細な表現が見られる。
- (2) 中国の伝統文化では、親子間で直接謝罪することは少なく、尊敬や権威を重視する傾向がある。これに対して、日本では家族間での平等と相互尊重が強調され、親が子どもに謝罪することがよくある。これは、より柔軟で謙虚な謝罪文化の表れであろう。
- (3) 中国では謝罪が比較的直接的で、親しい関係ではあまり正式に行われないこともある。一方、日本では謝罪時の謙虚さや責任感が重視され、謝罪を通じて人間関係を修復・維持することが強調され、より強い誠意と感情の配慮が見られる。

ご清聴ありがとうございました

編集後記

早いもので、国際交流記録文集も第16号となりました。2020年1月に新型コロナウイルスの国内初の感染者が確認されてから2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行するまでの約3年間は、外出自粛要請等により国際交流も困難な状況となっていました。しかしオンラインを活用するなど、交流の方法も多様化しました。そして2024年度は新型コロナウイルス感染症の発症前のような交流が可能となり、本学でも5つの研修プログラムと1つのオンライン交流会を実施することができました。中でも保健医療学部が学生3名が参加した「台湾文化交流研修」は今年度からスタートした新たなプログラムで、学生は語学だけでなく異文化を体験する貴重な機会となりました。

2025年は、4月から半年に渡り大阪にて『2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」』が開催され、多くの国の方々が来日されます。これは国際交流の絶好のチャンスです。普段なかなか国際交流の機会を持てない方も、1歩踏み出してみませんか？

さて、本誌は、今年度学生が国際交流の際に使用したスライドや、学生の学び・感想をまとめたものとなります。学生の国際交流にご支援・ご協力を頂きました皆様、本誌発刊にご協力いただきました皆様に深謝申し上げます。

社会・国際連携センターでは国際交流と併せて地域貢献に関する事業も実施しています。公開講座や近隣地域の行事への協力等で地域振興に努めるとともに、教員の教育研究活動を通じた社会貢献の情報等をお知らせする「奈良学園大学ニューズレター」の発行をしています。今後とも社会・国際連携センターの事業についてのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会・国際連携センター運営委員
保健医療学部 講師

笹野 弘美

社会・国際連携センター発刊

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

Tel. 0742-93-5405

<http://www.naragakuen-u.jp>

